平成２２年度

# 川口市児童生徒
# 学力向上
# アイディア実践事例集

第5集

川口市児童生徒学力向上推進委員会

平成２３年3月

# あ　い　さ　つ

川口市教育委員会教育長　　神 山　則 幸

このたび、平成２２年度川口市児童生徒学力向上推進委員会の研究成果として、「川口市児童生徒学力向上アイディア実践事例集」第５集が刊行される運びとなりました。

平成２３年度は、小学校で新学習指導要領が全面実施となり、中学校では移行期間最後の年をむかえます。新しい学習指導要領では、「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用し、思考力・判断力・表現力をはぐくむ」という学力観についての位置づけがなされています。また、「国語をはじめ各教科等で、記録、説明、批評、論述、討論などの言語を使った活動を充実させ全ての教科等で言語の力をはぐくむこと」や、「体験的な学習や探究的な学習を展開し、個に応じた指導を充実させる指導方法の工夫改善を進めること」など、学力向上にむけた取組の内容が具体的に示されております。

本市では、子どもたちに確かな学力を身につけさせるため、埼玉県の「教育に関する３つの達成目標」の検証結果や「全国学力・学習状況調査」「埼玉県学習状況調査の結果」について分析を重ね、各学校の真摯な取組によって、徐々に成果が現れてきております。一方、課題も明確になってきており、一層自校の課題に向き合うことや、授業の充実を図ることなど、今後さらに研究を深めていくことも必要となっております。

さて、本事例集の発行は、学力向上研修講座や学力向上支援事業と並び、川口市児童生徒学力向上推進委員会が行う重要な事業の一つとなっております。本年度で第５集となり、これまで以上に各学校において使えるアイディア集となるよう、事例の厳選に努め、掲載内容も読みやすさをさらに追求し、コンパクトにまとめてあります。また、先生方が求める事例を容易に見つけることができるよう、「活用の仕方」を冒頭で紹介するなど、工夫を凝らしてあります。さらに、各学年や教科ごとにいつでも手に取ることができるよう、配布冊数も学校規模に応じて増やしましたので、各学校におきましては、児童生徒の実態に合わせ、本冊子を有効に活用していただきたいと思います。この冊子がよりよい指導を目指す方々のネットワークづくりにも貢献できれば幸いです。

終わりになりますが、本冊子を発行するにあたりご尽力くださった学力向上推進委員会委員の皆様に対し、深く感謝の意を表するとともに、各学校におきましては、今後とも児童生徒一人一人に「確かな学力」を身につけさせるために、指導の工夫と改善に努められるようお願い申しあげあいさつといたします。

平成２３年３月

# 目　　次

あいさつ　　川口市教育委員会教育長　神山　則幸　　1
目　　次　　2
活用の仕方　　3

国　語

事例１　「どうぶつの赤ちゃん」ずかんをつくろう　　6
　　～主体的に取り組む学習活動を目指して～
事例２　「何に見えるかなゲーム」をしよう！　　１０
　　～めざせ、発表名人！聞き名人！～
事例３　百人一首を楽しもう　　１４
　　～百人一首で音読の楽しさに触れる～
事例４　一文字の持つ力に気付こう！　　１６
　　～読解に役立てる文法～

社　会

事例１　楽しく自然に繰り返し 47 都道府県を効果的に習得しよう　　２０
　　～「楽しく」「自然に」「繰り返し」で都道府県を覚える授業の工夫～
事例２　興味関心を高め、進んで児童が考える授業を目指して　　２３
　　～大型テレビを活用した授業実践～
事例３　主な国々の位置をクイズ形式で再チェック！　　２６
　　～「国旗＆国歌＆童話と、地図帳を併用した班対抗競技」～
事例４　世界地図を読む基礎的な力をつけよう　　２８
　　～スポンジボールを活用した実践～

算数・数学

事例１　ノート指導の工夫　　３０
　　～今日からできるノート指導～
事例２　比較検討場面の指導　　３２
　　～３年生「２位数×２位数」の比較検討場面の指導をとおして～
事例３　個に応じた学習支援の実施　　３４
　　～学び直しの場から学習意欲の向上へ～
事例４　計算力の向上と学習習慣の定着を図る　　３６
　　～数学計算コンテストと家庭学習帳の取り組み～

理　科

事例１　理科室の環境づくりの工夫　　３８
　　～理科好きな児童を育てる理科室の環境づくり～
事例２　実感を伴った理解を図るための教材の工夫　　４０
　　～電流による発熱量を視覚的にとらえる工夫～
事例３　簡単なモーターつくり　　４２
　　～整流子のない簡単なモーターを製作する～
事例４　目で見て発見！電流と磁界の世界を探ろう　　４４
　　～マグチップを使った磁界の様子と
　　電流磁界観察器を利用した磁界の向き～

英　語

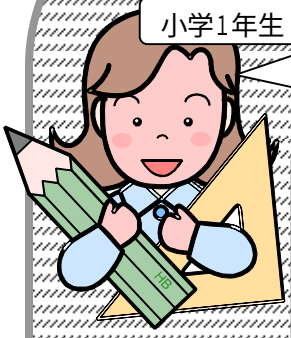
事例１　「スーパーインプット」で語順を正しく覚えよう！　　４６

バックナンバーもぜひご活用ください　　５０

## 活用の仕方

# この冊子は、先生方のこんな悩みの解消に役に立ちます。

## 国　語

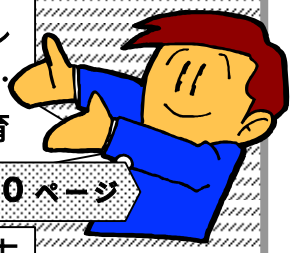


小学1年生

説明的な文章の読解を通して身に付けた知識・技能を活用する授業を工夫したいのですが……　興味を高める課題を設定して、児童が主体的に取り組み、書く楽しさを味わわせる授業のアイディアはありませんか？

６ページへ

小学2年生



低学年で「話すこと・聞くこと」の基礎・基本を身に付けさせることが大切です。ペアや小グループでの話し合い活動を工夫したいのですが……対話活動を楽しみながらよい聞き手・話し手を育てるためのアイディアはありませんか？

１０ページ

中学1年生

古典の学習の入門期に百人一首を使って、楽しく古典の世界に触れ、興味を持てるような活動を工夫してみたいのですが……　学校にある百人一首に少し手を加え、短時間で取り組めるアイディアはありませんか？

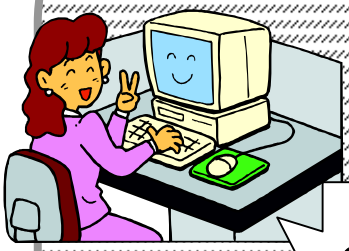
１４ページ

中学3年生

覚えることが多く、生徒にとって負担感も大きいのが言葉のきまりの学習です。特に付属語は、むずかしと感じる生徒が多いようですが……　興味・関心を持って付属語の学習に取り組めるような導入の工夫はありませんか？

１６ページ

## 社　会



新学習指導要領において、小学校から地図帳等を活用し４７都道府県の名称と位置を指導するようになりました。小学生の発達段階も考えて、「楽しく」「自然に」「繰り返し」都道府県を習得させる方法等があったら教えて下さい。

２０ページ

小学中学年

小学高学年

社会科の授業というと、どうしても説明が中心の学習になってしまいがちです。児童が興味・関心を持って学習に参加したり、児童自らが考えるような授業にしたいのですが、教室に常備された大型テレビ等を使った効果的な学習方法はあるのでしょうか？

２３ページ

中学地理

中学生のアンケート調査を見ると、中学校の３分野の学習の中で世界の国々の様子をイメージできず、覚える事が多いという理由から、地理的分野の学習を苦手としている生徒が多いです。入学直後に、地理的分野の学習を興味・関心を持たせ、楽しく学習させる方法等があれば教えてください。

２６ページ

中学地理

中学校地理的分野の学習では、いつも「緯度と経度」「地球儀と地図」の学習が上手くできません。教材を工夫し、体験的な学習方法を考え地球儀や地図を積極的に活用し実践しているのですがなかなか思うようにいきません。何かいい学習方法はあるのでしょうか。

２８ページ

# 算数　数学

小学生

算数の授業で児童が使うノートの種類は方眼がいいのかな？それとも罫線がいいのかな？方眼のときは何㎜がいいのかな？

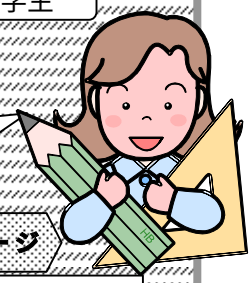
ノートの書くときのポイントは？

授業を振り返ることのできるノート作りとは？

今日からできるノート指導を紹介してください。

３０ページ

小学生



問題解決的な授業では、比較検討の場面で、わかっている児童が中心になって進めていくことがよくあります。比較検討の構想図を作り、教材研究をすることにより、教師も児童の考えを生かした比較検討ができます。構想図の例を参考にして、先生ご自身で構想図を作成し、今後の指導に生かしてみてください。

３２ページ

中学生

学習に遅れが出てしまい、数学への興味・関心の低い生徒をいかに支援していくのか、できる喜びを味わい、学習習慣の定着を図るためにはどう取り組んだらよいのか、「学び直し」の機会をつくり、すべての教師が取り組める内容を紹介してください。

３４ページ

中学生

本校には、計算領域でつまずいてしまい、数量関係や図形の学習に意欲を持てない生徒がいます。数学の学習にやる気を持たせるため、まず計算力を向上させたいと考えました。どんな取組が効果的でしょうか。すぐに始められて、効果のある取組を紹介してください。

３６ページ

# 理　科

理科室経営

理科室は、理科を学ぶとても大切な空間だと思います。理科室に入るとわくわくする。理科がどんどん好きになる。理科室にまた来たくなる。そんな魅力的な理科室の環境づくりで良い方法があったら教えてください。

３８ページ

小学6年生

新学習指導要領に「電気の利用」が新しく加わりました。できるだけ実験を取り入れて、分かりやすい授業を展開しようと思うのですが、電流や熱量を目で見ることができないため、実感が伴いません。これらを視覚的にとらえる良い方法はないでしょうか。

４０ページ

中学2年生発展

電流、磁界、力の関係は、生徒が苦手とする分野の一つです。その中で、モーターは身近でありながら、苦手意識のためか、仕組みを十分に理解していない生徒が多くいます。簡単に興味が持てる良い方法を教えてください。

４２ページ

目で見ることができない磁界の様子を、視覚的に観察できるように、これまでも砂鉄などを使って教材開発を進めてきました。しかし、今ひとつうまくいきません。もっと良い材料や方法があったら、ぜひ紹介してください。

４４ページ

教材開発

# 英　語

中学生

新学習指導要領では、前学年の学習内容を繰り返して指導し、定着を図ることと述べられています。特に、基本文型は繰り返し練習し、活用できるようにしなければなりません。そこで、基本文型を確実に身に付けさせ、達成感を味わわせることができる、良いアイディアはありませんか。

４６ページ

この冊子は、先生方のこんな悩みの解消に役に立ちます。

# 国語　小学校1年生　単元「どうぶつのあかちゃん」

# 「どうぶつの赤ちゃん」ずかんをつくろう

**～サブテーマ～**

主体的に取り組む学習活動を目指して

**川口市立戸塚北小学校　教諭　山口　由美子**

## はじめに

本校は、「教育に関する３つの達成目標」を中核に据え、「基礎・基本の確実な定着をめざして」研究を重ねてきている。本年度は、「思考力、判断力、表現力等」をはぐくむために、知識・技能の活用を図る学習活動を充実させ、これらの学習の基盤となる言語に関する能力の育成のために、記録・要約・説明・論述などの学習活動にも積極的に取り組んでいる。

本単元「どうぶつの赤ちゃん」では、「動物の赤ちゃん図鑑をつくろう」という児童の興味を高める課題に向かって、児童一人一人が主体的に取り組み、書く楽しさ、喜びを味わえる活動を目指している。これらの言語活動の導入・充実から、「解釈する」「思考する」「選定する」「判断する」「説明する」「発表する」等の学習活動を充実させる格好の機会となると考えた。

## ね ら い

**伝え合う喜びが味わえる児童の育成**

＜学習指導要領　「Ｂ書くこと」の指導事項＞

第１学年及び第２学年

ウ　語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。
オ　書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと。

身に付けさせたい力（教師の願い）

①図鑑づくりから、資料を選び、情報を収集し、活用していく楽しさを知る。
②ほかの動物の赤ちゃんに関心をもち、友達に伝えたり、友達の発表に興味をもって聞いたりする。

仮説

記録・要約・説明・論述などの学習活動を取り入れた指導過程を工夫し、児童自らが課題を解決する場面を取り入れていくことによって、自分の考えを伝えたり、友達の良いところを見付けたり、友達と自分のものを比べたりすることから、伝え合う喜びを味わえる児童を育成することができる。

手立て

(1) 課題解決の助けとなるワークシート。
(2) 言語環境を整える教室掲示の工夫。

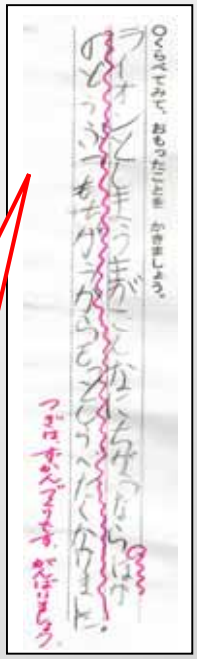
## 実 践 例

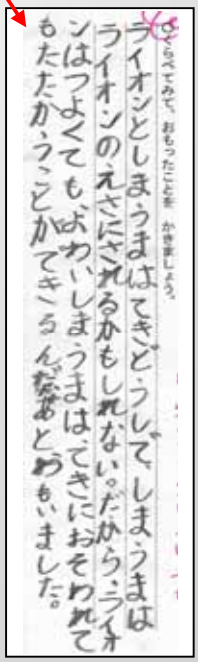
### (1) 課題解決の助けとなるワークシートの工夫

(ｱ)今までも、ワークシートを活用した授業は多く取り組んでいる。「ふりかえりカード」を活用することで、児童は、学習の見通しをもつことができる。また、毎時間の自己評価は、児童の様子が分かり、教師にとっても、次時の学習への支援・指導に生かすことができる。

ワークシート(ｱ)
ふりかえりカード
学習の見通しをもたせるとともに、児童の自己評価から個に応じた指導ができる。

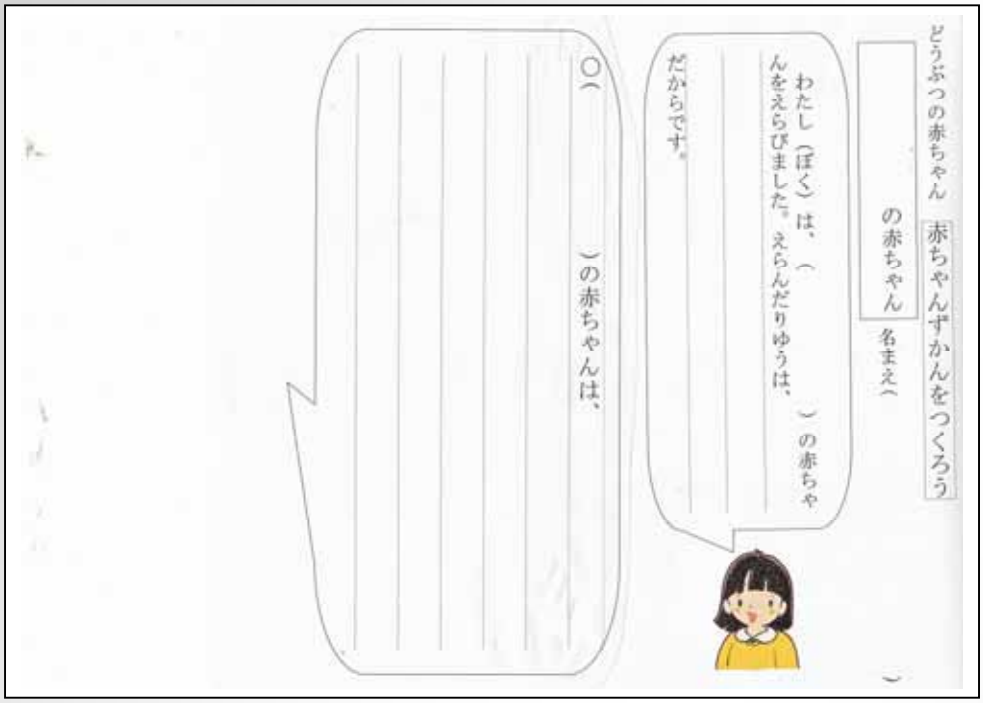
自分から進んでワークシートに書き込み、時間の中で仕上げることができた本時の感想は、「うれしかった」と書かれていた。自己評価で△だったところは、「難しかった」からだそうである。本人の気持ちが確認できる。





ワークシートには、児童の心を揺さぶる質問を入れた。
自分の考えをもち、文章で書き表すことで、1年生なりに、課題意識をもって取り組むことができ、次時への期待が膨らんでいった。

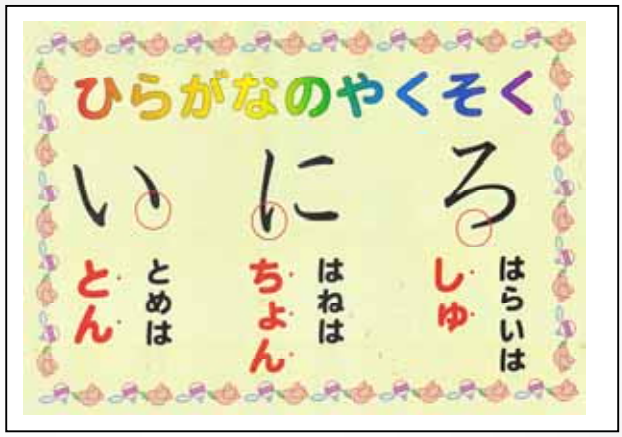
(イ)理由付けを入れた、「どうぶつの赤ちゃん　ずかん」のワークシート




動物を選んだ理由を自分の言葉で、伝える。

### (2) 言語環境を整える教室掲示の工夫

これまでの本校の研修の成果として、各教室には、国語の掲示物が充実していて、学年の発達段階に応じた内容になっている。また、高学年になるにつれて、姿勢や鉛筆の持ち方の指導を忘れがちになってしまうため、全学年「姿勢」と「鉛筆の持ち方」を掲示し、常に意識していけるようにしている。



## 成　　果

ワークシートを活用した活動と児童の興味・関心を高める資料の提供などを通して、「選定する」「要約する」「説明する」「発表する」などの課題意識をもって、学習活動に取り組む姿が見られた。また、児童の「ふりかえりカード」の自己評価から感じ取れる児童の意識の流れをもとに、個に応じた指導・支援を行ったことが、児童の学習意欲を持続させていくことができた。

基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、それを活用する基盤を築くためには、自分の考えを伝えたり、友達の良いところを見付けたり、友達と自分のものを比べたりするなど、児童の心を揺さぶる学習経験を重ねていくことが、伝え合う喜びを味わえる児童を育成することができると考える。今、求められている「思考力・判断力・表現力等」をはぐくむために、学習課程を工夫し、児童が課題に対して主体的に取り組む学習を今後も目指していきたい。

# 国語　小学校2年生　　話すこと･聞くこと

# 「何に見えるかなゲーム」をしよう！

**～サブテーマ～**

## めざせ、発表名人！聞き名人！

**川口市立安行小学校　教諭　小山　和子**

## はじめに

児童はこれまでに、各教科をはじめいろいろな場面で「話す・聞く」機会を得てきた。その多くは、一対多による独話的なものである。そこで、本教材では、学級全体での話合いだけでなく、経験の少ないペアや小グループでの話合いも取り入れ、対話活動を楽しみながらよい聞き手、よい話し手を育てるための工夫を行った。

## ね ら い

| 学習指導要領における指導事項 | 身に付けさせたい力 |
|---|---|
| 話すこと・聞くこと（第１学年及び第２学年）<br>ア　身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。<br>イ　相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。<br>ウ　姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。<br>エ　大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。<br>オ　互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。 | ① 聞き手（グループやクラスの友だち）にわかりやすいように、声の大きさや速さ、言葉づかいに注意しながら話す力<br>②何に見えるか、自分で考えた答えとその理由を説明する力<br>③話し手に顔を向け、何に見えるのか関心を持ち、うなづいたりしながら集中して聞く力<br>③ 発表を聞いて、わからないところを質問したり感想を述べたりする力 |

## 実 践 例

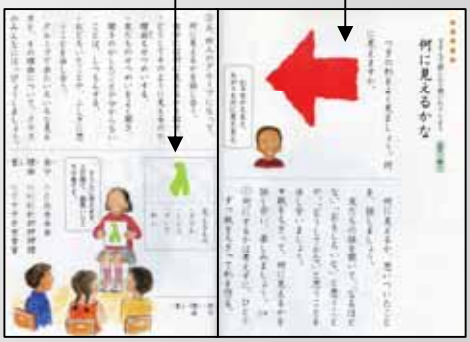
### (1) *日常的な取り組み*

①朝の会で「詩の音読コーナー」を設け、毎日３人ずつ発表する。
②帰りの会で、その日良いことや優しいことをした友達を紹介するコーナーを設ける。
「誰が、どんな良いことをしたのか」わかりやすく順序立ててみんなに説明。

### (2) *教材について*

「結論の言い方、理由を説明する言い方、質問の仕方に気をつけながら、紙をちぎって作った様々な形を身の回りのいろいろな物や動物に見立てて、自分の考えを紹介し、友だちとのやりとりを楽しむ。」ことを目標とする。

教科書では、
ちぎり絵を使用。




**学習への意欲を高めるために、話題を変更。**＊（３）参照
ちぎり絵ではなく、**シャボン水で作った泡の形**を使用。

## (3) 話題の設定　～他教科等との関連を図る～

話題については、児童が「話したい、聞きたい、話し合いたい」という思いや願いを生かすような工夫が必要である。そこで、教科書ではちぎった紙の形で話し合うことになっていたが、今回は、図工「キラキラシャボンで」と関連を図り、色シャボン水の泡でできた形を見て、「何に見えるか」話し合うことにした。

ストローでブクブクブク……。どんな形になるのかな？

## (4) 授業の流れ

★図工「キラキラシャボンで」と関連を図り、色シャボン水の泡で形を作っておく。

↓

**①話合いの進め方を練習。教科書の問題を活用。**

・教科書ｐ４８を見ながら、教師が進める。児童は、教科書に載っている形が何に見えるかを考え、発表する。その際、理由の言い方「～だから」を徹底させる。
・教科書ｐ４９に載っている形を見て、教師が助言をしながら、「グループ発表の仕方」のプリントＡを真似して、代表の班がゲームを行う。
・代表グループの見本を見た後、教科書ｐ４９の形について、各班で話合いの練習を行う。

↓

**②グループで「何に見えるかなゲーム」を行う。**

・自分で作ったシャボンの形が何に見えるか、自分の意見（答えと理由）をプリントＢに記入する。
・１班４人で、椅子だけを円く並べて向かい合う。
・「グループ発表の仕方」のプリントＡをもとに、「何に見えるかなゲーム」を進める。

↓

**③④学級全体で「何に見えるかなゲーム」を行う。**

・グループごとに、みんなの前で示す図形を１つ選ぶ。
・その図形について、１人ずつ何に見えるか、理由も合わせてプリントＢに記入する。
・グループごとに前に出て、発表者が司会進行を務め、ゲームを行う。
・聞き手に、何に見えるか考えてさせ、思いついたものすべてを「算数で使っているブロック板」の裏に、ボードマーカーで記入させる。
・聞き手全員がブロック板を発表者に見せる。
・各班の中から１名ずつ、答えと理由を発表する。
・発表者は、１人ずつ自分の考えた答えと理由を言う。
・１つ当たったら１点とし、班ごとに点をつける。

↓

★図工の作品を仕上げる。

発表者がプリントを見ず、前を向いて話せるように、進め方のメモを後方ロッカーの上に掲示した。

聞き手

話し手(発表者)

**ブロック板の活用**

全員には、答えと理由を発表してもらえないので、ブロック板で児童一人一人が自分の考えを提示できるようにした。

＊ブロック板とは、低学年が算数のマグネット付きのブロックを並べたりして操作する時に使う板で、升目のついたホワイトボードのようなもの。

### (5) 言葉遣いを使い分ける

言葉遣いについては、「丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて話すこと」が求められている。話すときの言葉遣いは、相手との親疎や人数の多少、改まった場面かどうか等に応じて使い分ける必要がある。そこで、今回は、少人数のグループで話合う時は普通の言葉、学級全体で話合う時は丁寧な言葉、というように、言葉遣いを使い分ける指導をした。

### (6) 話し手と聞き手

発表会では、発表者（話し手）は言われなくても一生懸命取り組み、教師も発表者への指導に目を向けがちである。しかし、実際には、話し手を支える聞き手が大切である。そこで、話し手の方に顔を向け、うなづいたり相づちを打ったりしながら聞くことを「聞き方名人」の項目に入れて、意識させた。

### (7) 評価

・自己評価カードを作成。児童には、「聞き方名人・話し方名人になろう」という指導をし、「聞き方名人」「話し方名人」を評価の基準として、どんな話し方、聞き方がよいのか、わかりやすくした。
・記述式の部分をつけて、感想も書けるようにした。

## 成　果

話題を「シャボンの泡」にしたことで、児童の興味・関心をひき、話し合いが盛り上がり、意見がたくさん出た。早く終わったグループは、自ら２つ目の答えと理由を考え、２回目のゲームを行っていた。また、グループ内で画用紙を交換して、新たにゲームを始める班もあり、意欲的に取り組む様子が見られた。

発表の際は、形を指し示しながら「ここが～」と説明できるが、自分の考えをプリントに書くとなると、「ここ」とは書くことができない。そのため、「右上の丸くなっているところが～」というように、言葉を駆使して説明することになった。よって、書くことを取り入れたのは、自分の言葉で伝えるのに効果的であった。

グループ内で話し合う時と、学級全体で話し合う時では、緊張の度合いも違ったようで、自然と言葉遣いを使い分けていた。

今後とも、対話活動を楽しみながらよい聞き手、よい話し手の育成を心掛けていきたい。

## 資　料

**《 図工の作品として完成 》**

国語の「何に見えるかな」が終わったら、図工の作品として、何に見えるかいろいろと出た意見を参考にしながら、ペンで書き込みをして仕上げた。

「かぴばらちゃんと　あそんだよ」

「大きなへびがいる公園」

プリントＢ



何に見えるかな

二年　１組（　　）

自分で作った形が、何に見えるか

ひこうき

りゆう

①右左のところが空をとぶところでまんなかのところが人をのせるところに見えるからです。

②一番ちがめの四角は、パラシュートをもってだいゆうするところに見えるからです。

これは、ひこうきに
見えるよ。

理由の時は、
「～だから」と
書く。

【グループはっぴょうのし方】

はっぴょうする人「この形は、何に見えますか。わたしが何に見えたか、当ててください。」

○さん「それは、くじらですか。」

はっぴょうする人「ちがいます。」

△さん「それは、ブーツですか。」

はっぴょうする人「ちがいます。」

□さん「それは、きりんですか。」

はっぴょうする人「当たりです。
「わたしは、これがきりんに、見えました。」

「りゆうは、上のところが頭で、縦長いところが首に見えるからです。」

「それでは、みんなも、どうしてそう見えたのか、りゆうを教えてください。」

○さん「それがくじらに見えたりゆうは、広がっているところがくじらの頭に見えたからです。」

はっぴょうする人「ああ、なるほど。わたしは、思いつきませんでした。
△△さんは、どうですか。」

△さん「それがブーツに見えたりゆうは、右の下のところがかかとで、左の下のところがつまさきに見えたからです。」

はっぴょうする人「わたしにも、そう見えます。
では、つぎに○○さんおねがいします。」

「何に見えるかなゲーム」をやってみて

二年　１組（　　）

◎よくできた　○だいたいできたが、もうゆしがんばれる

①グループで

【話し方名人】

| 声の大きさはやさ | 友だちを見て話す | もんだいを出すりゆうをせつ明するしつもんにこたえる | 話している友だちの方を見る | うなづいたり、あいづちをうったりしながら聞く | 考えながら聞いて、しつもんしたり、自分の考えを言う |
|---|---|---|---|---|---|
| ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ |

【かんそう】もう少し聞きめいじんと話しめいじんをめざしてみます。すごく楽しかったしすごくおくおくしてとてもたのしかったです。ぜん体でやったほうがもっと楽しいと思います。当てたときはすごくうれしかったです。

②クラスぜん体で

【話し方名人】

| 声の大きさはやさ | 友だちを見て話す | もんだいを出すりゆうをせつ明するしつもんにこたえる | 話している友だちの方を見る | うなづいたり、あいづちをうったりしながら聞く | 考えながら聞いて、しつもんしたり、自分の考えを言う |
|---|---|---|---|---|---|
| ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

【かんそう】話しめいじんに少しだけなれてうれしかったし聞きめいじんになれてよかったです。やってみてグループよりみんなでやったほうがたのしかったです。話ふたはグループのときはうだとへいえたけどぜんたいのときはうです。うまくいかないといけないのがすごく気をつけました。

自己評価カード

プリントＡ

国語　中学校1年生　単元「古典との出会い」

# 百人一首を楽しもう

～サブテーマ～

## 百人一首で音読の楽しさに触れる

川口市立戸塚中学校　教諭　寒河江 真亮

### はじめに

百人一首の楽しさに触れ、古典の世界に興味をもつ。

古典の世界に触れさせ、楽しませるために取り組まれることがある百人一首。百首を行う機会を多く作ろうと思っても、どうしても一時間の中ではやりきれない場合が多い。短時間に行うこともできる工夫がされている百人一首の教材もあり、ご存知の方も多いと思う。しかし、すでに百人一首を数セット、あるいは数十セットという単位で購入している中で、新たにそのような教材を購入することは容易ではない。

そこで、短時間で百人一首に取り組めるよう、すでに購入してある百人一首に少し工夫を加えた。その際、時間をなるべくかけずにできるように手順を考えた。また、作業をし終えた百人一首に二つの形態で取り組ませることで「古典に興味を持つ」「音読を楽しむ」部分の向上を図った。

### 実 践 例

**（1）事前の準備（＝既成の百人一首を５グループに分ける）**

①読み札を最初の音で五十音分けする。
②国語資料集中の「決まり字」で歌番号を記入し、1～20、21～40……と20首ずつ分ける。
③取り札を最初の音で五十音順に並べ、読み札又は資料集を見ながら歌番号ごとに20首ずつ分ける。
④20首ずつ色又はマークを決め（例：1～20白又は○・21～40緑又は◎など）、　取り札に塗る。
（色ならおもて、マークなら裏）。

（2）百人一首を行う（通常の百首を散らす方法や源平合戦以外）

パターン1
・20首を指定（例：「◎の 20 首」）し、歌番号に合わせて資料集を確認。暗記の時間をとった後、散らしのルールで20首ずつ行う。

パターン2
・自分たちで読む色を決め、読み手にもなる。読み手でない時は取り手として参加する。
・1回目の始めのみ一斉。あとは班で進行する。

注意点や教材としての特徴

① 1セット（20首）を行う時間は、各班の準備の時間も含めるとパターン1で10分程度、パターン2では7～8分程度。
② 散らした後で暗記の時間を確保することで、百人一首の楽しみ（上の句で取る）を多くの生徒に味わわせることができる。（暗記時間には取り札に触らせないようにする）
③ 短い時間でも回数を重ねておこなうことができるので、音読に上達が見られる。
④ 20枚散らしておいて、読むのは10枚にする、40枚を散らして暗記する枚数を増やす、等の変化を加えることで暗記が進んだ生徒に対して難易度をコントロールすることもできる。

## （２）活動の様子

暗記や読み練習の時間を確保できるので、熱心に取り組みます。

自分の分担があるので教えてもらいながら学習します。

６人程でグループを作ります。レベル分けしても楽しめます。

読み手 ⇩ 交代

授業中の生徒の発言

・「あ、きりぎりすがある…
　暗記時間の発言）」
・やった、上の句で取れた」
・先生、次、オレンジやって
　自分の好きな歌がある）」
・今度は私も読み手をやってみよう（パターン２の時に）」

進度例（パターン1）

①机の準備をさせる（二〇枚なので机に二つで十分）
←
②取り札を各班に配り、取り札マーク（↑歌番号も対応している）を指示する。
←
③取り札を散らし、暗記時間をとる（その時に生徒は決まり字のページや好きな歌を読んで覚える）
←
④資料をしまわせ、教師が読み手をする。その後、二〇枚終わったら①に戻り、繰り返す。

ある班の進め方（パターン2）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 読み手 | Aさん | Bさん | C君 |
| 歌番号 | 1～20 | 61～80 | 81～100 |
| 進度 | 9:15 → 9:24 | → 9:30 | → 9:37 |

・パターン1では20首についての解説を教師がすると興味を持ちやすいようです。
・パターン2なら、1 セットあれば5つのグループまで対応できます。

生徒の感想

・初めはカルタの方が面白いと思ったけれど、上の句で取れると百人一首は楽しい。
・自分の好きな歌を増やすことができた。
・何回もできてうれしかった。
・読むのも初めは難しかったけれど、読めると面白かった。

**成果と課題**

２０首という限定があるため、小学校で既に学習した生徒だけでなく、初めて百人一首に触れたという生徒も「暗記すれば取れる」という意欲や向上心を持ちやすいようだった。加えて今回は、生徒が読み手となる指導を初めて行ったが、生徒の感想や、熱心に音読練習し、回を重ねるごとに上達していく様子からは学習効果が感じられた。反面、机や椅子の準備が必要なため、帯単元にするには指示の仕方に課題が残った。また、パターン２では、音読練習と質問を受ける時間を十分に確保できなかった場合に、下の句だけを読む生徒も取り組み始めた回の授業では見受けられた。二つの課題については今後の指導で改善を図りたい。

# 国語　中学校3年生　単元「文法の広場　助詞と助動詞」

## 一文字の持つ力に気付こう！

～サブテーマ～

## 読解に役立てる文法

川口市立青木中学校　教諭　髙原　徹

### はじめに

文法の授業は、生徒にとっても教える側にとっても負担感の大きな授業ではないでしょうか。覚えることも多く、知識として習得していなくても日常の言語活動には不自由を感じることが少ない生徒たちにとって、何のために学習するのか分かりにくい授業となりがちです。

平成20年3月に告示された指導要領では、「言葉の特徴や決まりに関する事項については（中略）言語生活の向上に役立てることを重視すること」とあり、文法などの言語事項を、単なる知識とせず、日常の表現に役立てられるようにすることが求められています。昨年度は自立語に慣れながら学習する一助となるようにゲーム型式で工夫しましたが、今年度は助詞と助動詞の学習の導入を工夫しました。

### ね ら い

私たちの言語生活を振り返ってみると、特に会話において私たちは助詞や助動詞を無意識のうちに選択し、自らの思いを伝えています。特別な意識なしに使えてしまうために、付属語は自立語に比べて意識されにくく、さらに、文字としてかかれる場合でも、ひらがなで表記されるために軽んじられ、意識的に読解しなければ見落とされることもあります。実感としては、「私は」という言い方と「私が」という言い方が同じだと感じる生徒も少なくないと思います。しかし、私たちが思いを表すときに、自分の本心が表れるのも付属語ではないでしょうか。「窓を割った」のと「窓を割ってしまった」のでは、時制だけでなく思いが違うのだということを生徒自身が意識できるよう、付属語に対する意識も育てていきたいと考えています。

### 実 践 例

#### (1) 授業に入る前に

文法の単元に入る前に、簡単なアンケートを取りました。以下にアンケートの項目を示しておきます。

**①　昨年度、自立語の授業を受けて、自立語を意識するようになりましたか？**

**②　今年度は付属語を学習しますが、これまで書いたり話したりするときに付属語を意識してきましたか？**

**③　自分の思いを人に伝えるときに、自立語と付属語、どちらを重視していますか？**

#### (2) 授業の流れ

事前にアンケートをとる

・これまでの言語に対する意識を振り返ります。

⇩

導入プリントに取り組む

・教科書の例文から、アレンジした例文まで1時間で取り組みました。
・4人班を作り、友達同士読み合いながら進めると理解が深まるでしょう。

⇩

付属語の特徴を整理し、まとめる

・文法のワークブックを活用し整理しました。

事前に行ったアンケートの結果では、付属語を意識して書いたり話したりする生徒は少なく、思いを伝えるために自立語を重視するという生徒が圧倒的に多く見られました。そのことを生徒に伝えたうえで付属語の授業に取り組みました。

### (3) 生徒の取組から

【プリントの二より】

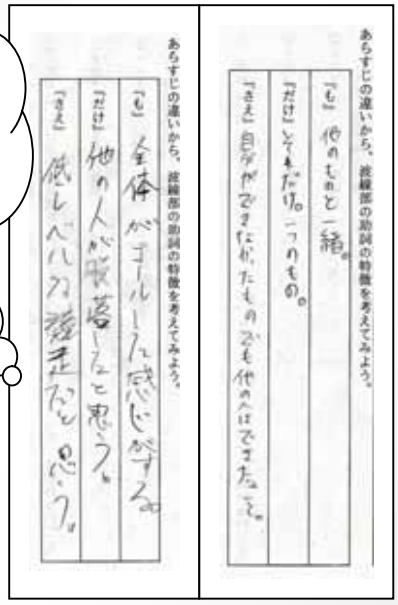
**生徒の考えたあらすじ**

①市民マラソンが行われた。大人に混じって参加した小学生がいたが、多くの人に応援されて<u>小学生も完走した</u>。

②障害物競走が小学生から大人まで参加して行われた。途中に小学生しか通れない細い道があって、<u>小学生だけ完走した</u>。

③500メートルマラソンが行われ、<u>小学生さえ完走した</u>。

互いに教え合うなかで特徴をはっきりさせた生徒が多く見られました。



プリントの二の課題では、「小学生も完走した」「小学生だけ完走した」「小学生さえ完走した」という３つの文を物語の結末に見立ててあらすじを考えさせました。

【プリントの三より】

**生徒の考えたあらすじ**

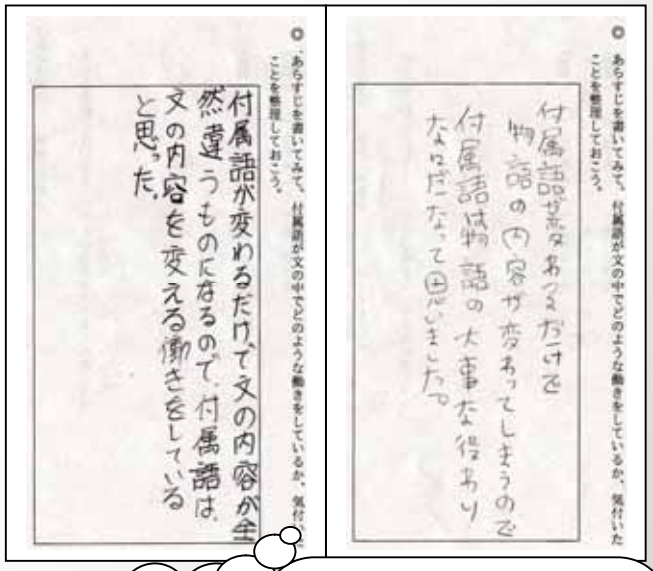
・メロス（<u>だけ</u>）激怒し（<u>なかった</u>）。
　→周りの人たちは王に対し怒っているが、メロスは何も感じず怒らなかった。

・メロス（<u>が</u>）激怒し（<u>ていた</u>）。
　→なぜなら大切な宝物を妹に壊されてしまったからだ。

・メロス（<u>が</u>）激怒し（<u>そうになった</u>）
　→王の暴挙に腹が立ったが、何かすると自分の命が危ういと考え、思いとどまった。

・メロス（<u>に</u>）激怒し（<u>たい</u>）。
　→王を改心させ、新たな王となったメロスに、町の人々が不満を抱き始めた。

・メロス（<u>も</u>）激怒し（<u>なかった</u>）。
　→国王はとても良い人で、毎日楽しく暮らせたから。



付属語が物語の展開まで変えてしまうことに気づく生徒が多く見られました。

**生徒の気づきから**

- **付属語が一語変わるだけでも、想定される話が変わると思った。**
- **付属語は物語の方向性を決める大切な役割りをしている。**

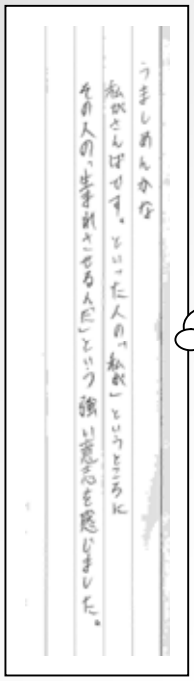
プリントの三の課題では、『走れメロス』の冒頭の付属語を変化させて、その後に続くのではないかというあらすじを考えさせました。個人で考えさせた後、グループで読み合って意見を出し合いました。

### (4) その後の授業で

今回の実践を行った後、以前ならば見落としていたような表現に気付く生徒が増えてきたことが実感できました。

① 詩『うましめんかな』

人々は自分の痛みを忘れて気づかった。
と、私**が**産婆です。私が生ませましょう」
と言ったのは
さっきまでうめいていた重傷者だ。




『私は』では、実際に仕事としてやっていたのかもしれないが、『私が』になると、役割りとして自分が引き受けようというように読める、という意見が引き出されました。

付属語だけでなく、自立語に対する生徒の感覚も鋭くなったように感じます。

② 随筆『温かいスープ』

パンは安いから二人分食べ 勘定のときパンも一人分しか要求されないので、『パンは二人分です。』と申し出たら、人さし指をそっと唇に当て、目で笑いながら首を振り、他の客にわからないようにして一人分しか受け取らなかった。私は何か心の温まる思いで、「ありがとう。」と、**かすれた声で**言ってその店を出た。

そのときである。背のやや曲がったお母さんのほうが、湯気の立つスープを持って私のテーブルに近寄り、**震える手で**それを差し出しながら、小声で、『お客さまの注文を取り違えて、余ってしまいました。よろしかったら召し上がってくださいませんか。』と言い、優しいひとみでこちらを見ている。

昨年度のアイディア実践事例集で発表させていただいた『自立語活用ゲーム』で自立語に慣れていることもあってか、登場人物の心情に迫るための言葉に気付く生徒が増えたようにも感じました。自立語の実践と付属語の実践が相互に影響しあっているのではないかと思います。小さな言葉であっても読み落としたり読み流したりするのでなく、そこから心情や状況を読み取ろうとする姿勢を持たせていきたいと思います。

## 成　果

今回の実践は導入だけではありましたが、その後に行った授業を振り返ると、生徒たちの付属語に対する意識は大きく変わったように感じます。２年間にわたる文法の実践ではありましたが、生徒の読解にも良い影響を与えることができたのではないかと思います。今回の実践にさらに工夫を加えて今後の授業に生かしていきたいと考えています。

文法の広場①　助詞と助動詞　（3　）

一　次の絵①②に合わせて（　）にひらがな一字を入れましょう。

①猫（　）ねずみ（　）追いかける。

②猫（　）ねずみ（　）追いかける。

二　次の①～③の文を、とある物語の最後の一文だとします。どんな物語かあらすじを書いてみましょう。

| | |
|---|---|
| ① | 小学生も完走した。 |
| ② | 小学生だけ完走した。 |
| ③ | 小学生さえ完走した。 |

あらすじの違いから、波線部の助詞の特徴を考えてみよう。

| | |
|---|---|
| 『も』 | |
| 『だけ』 | |
| 『さえ』 | |

三　次の（　）に主に付属語で言葉を入れましょう。ただし、「は」と「た」は使わないこと。

①メロス（　　）激怒し（　　）

②メロス（　　）激怒し（　　）

※①と②は違う言葉にしましょう。

①の続き（あらすじ）

②の続き（あらすじ）

◎　あらすじを書いてみて、付属語が文の中でどのような働きをしているか、気付いたことを整理しておこう。

**社会　小学校3年生～6年生　「都道府県」**

# 楽しく自然に繰り返し 47 都道府県を効果的に習得しよう

**～サブテーマ～**

## 「楽しく」「自然に」「繰り返し」で 都道府県を覚える授業の工夫

**川口市立領家小学校　教諭　尾田　賢一**

### はじめに

「第 3 学年及び第 4 学年の県の様子に関する学習において 47 都道府県の名称と位置を指導すること」

と新指導要領にある。これを受けて、都道府県を覚えさせなくてはいけないという意識をもっている方も多いだろう。

なかなか定着しないという声をよく聞く。都道府県名を書きこむプリントを何回もやるしかないという声も多く聞く。このような体力主義も時には必要だろう。しかし、毎回同じだと児童が飽きてしまったり、社会科を嫌いになってしまいがちだ。

ここでは、「楽しく」「自然に」「繰り返し」をキーワードとして、効果的に 47 都道府県を習得させるための方法をいくつかご紹介する。

### ね ら い

「楽しく」「自然に」「繰り返し」をキーワードとして意識した活動に親しませ、児童の都道府県への興味・関心を高め、効果的に習得できるようにさせる。

### 実 践 例

**(1) フラッシュカード**

繰り返し学習は飽きやすい。それを楽しくするためのポイントは次の3つだ。

**①1～2分で少ない数を繰り返し行う。**

何分もだらだらとやっていると飽きてしまったり、覚えることが苦手な児童にとっては苦痛となる。少し物足りないと感じるぐらいでやめると、児童は次回を楽しみにして待つようになる。(例えば、東北地方の6県だけ等)。また授業開始直後で行うと、毎回同じことから始められるので授業が安定する。

**②素早くテンポよく行う。**

テンポ良くやると、繰り返し学習も楽しくなる。テンポ良くやるためには、めくり方やカードの持ち方に多少の習熟が必要である。以下のサイトが参考になる。

(http://www.t-net.ne.jp/~otozu/yuuko/hurassyuka-do.html)

**③易→難の流れで指導する。**

「青森県(教師)→青森県(児童)」のように、教師→児童の順で言わせる。はじめは都道府県名だけを扱う。次に都道府県+県庁所在地「青森県青森市(教師)→青森県青森市(児童)」のようにしていく。

**※使用するフラッシュカードは、以下のサイトのものが使いやすい。厚いケント紙などに印刷して使用する。**

(http://www.tcct.zaq.ne.jp/bpbbd005/s-teacher/flashcard/todoufuken/index.html)

## (2) 地図帳を使った取り組み

教科書や副読本で出てきた地名を調べることは多くされている。しかし、地図帳の使い方を指導されていないために、地図帳を使うことをめんどうだと考える児童が多いとの声もよく聞く。

以下は、地図帳を「楽しく」「自然に（いつの間にか）」「繰り返し」使えるようになる方法である。また、都道府県を覚えさせるだけでなく、地図帳を活用できる児童を育成できる方法である。どれも、年度初めの4月から取り組むことができる。　※レベルは、簡単なものから

帝国書院「楽しく学ぶ　小学生の地図帳」より

①都道府県指さし（レベル1）

【やり方】
①地図帳のはじめのページ（全都道府県が載っているページ）を開かせる。
②教師が都道府県を一つずつランダムに言う。
③児童は言われるたびに、その都道府県に「はい」と言って指を置いていく。
④②と③を繰り返す。

②地図帳を使った都道府県クイズ（レベル2）

都道府県に興味を持たせるために、地図帳を活用させながら都道府県のクイズを出していく。
たとえば、以下のような問題である。他にも、いろいろな問題が考えられる。

「川がついている都道府県（3つ）」　→神奈川県、石川県、香川県
「山がついている都道府県（6つ）」　→山形県、山梨県、山口県、岡山県、富山県、和歌山県
「福がついている都道府県（3つ）」　→福島県、福井県、福岡県
「島の漢字がついている都道府県（5つ）」　→島根県、福島県、鹿児島県、広島県、徳島県
「色の漢字がついている都道府県（1つ）」　→青森県
「海に接していない都道府県（8つ）」　→埼玉県、山梨県、滋賀県、岐阜県、群馬県、栃木県、長野県、奈良県
「画数が最も多い都道府県」　→鹿児島県
「画数が最も少ない都道府県」　→山口県
「数の漢字がついている都道府県（2つ）」　→三重県、千葉県
「体の一部分を表す漢字が含まれている都道府県（2つ）」　→岩手県、山口県
「方角がつく都道府県」　→北海道、東京都
「生き物の名前が含まれている県（4つ）」　→熊本県（熊）、群馬県（馬）、鹿児島県（鹿）、鳥取県（鳥）、【少し例外：宮城県（ヤギ）、北海道（貝）、佐賀県（蛾）】

③地図帳のページを指定する地名当て（レベル3）

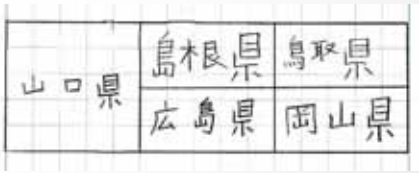
【やり方】
①地図帳のどこか見開き2ページを開かせる。（はじめは児童になじみのある関東地方がよい）
②そのページに載っている地名を教師が言う（または黒板に書く）。
③見つけた子はそこに指を置いて立つ（起立する）。
④半数程度の子が立ったところで、まだ見つからない児童は近くの子に教えてもらい、見つかったら座る。（立った児童に、どこの近くかヒントを出させても良い）
⑤②～④を繰り返す。
⑥数回やって慣れてきたら、1番はじめに立った児童が次の問題を出すというルールにしてもよい。

④ページを指定しない地名当て（索引を使わせるための取り組み）（レベル4）

【やり方】
①黒板にだまってどの児童も聞いたことがないが、索引には載っている地名を書く。
②児童はなかなか見つけられない。
③「このクラスでは無理かな」などと煽る。
④次第に見つけ出す児童が出てくる。多くの場合索引を使うことを自分で発見している。誰も索引を見つけられない場合は、「後ろの方にヒントがあるんだけどな」などと少しヒントを出す。
⑤ある程度時間がたったら、見つけた児童にページだけ発表させる。
⑥クラスの半数程度が見つけたら、初めに見つけた児童にどうして見つけられたのかを発表させ、大きくほめる。場合によっては、地図帳の索引に出てくる「数字カタカナ数字（例：29 オ 3）」の意味を簡単に説明する。
⑦次から、索引を使う児童が激増する。

### (3) インターネット活用

どの児童も、楽しく取り組むことができる。しかも飽きることがない。
①コンピュータールームで（一人一台）
検索ワード「都道府県マスター」
これ以外にも、たくさんのサイトがあります。
②電子黒板を使って（フラッシュサイト）
検索ワード「地図記号のおこりを考えよう」
「地図記号バトル」




### (4) 略地図の活用

中国地方 → 東北地方 → 四国地方

①中国地方を簡単に書いた略地図（右参照）を黒板に書き、ノートに写させる。
「これは中国地方です。地図帳を見てもよいですから県名を入れなさい」
②「前に勉強した中国地方を縦にして下に１つ付け加えると東北地方です」と言って、中国地方と同じように県名を入れさせる。
③四国地方以降は、児童に形を考えさせる。
「四国地方を、これまでと同じように簡単な図にします」
と言ってノートに書かせる。いろいろな形が出るが、明らかに間違っていなければよしとする。
④これ以降は、クラスの実態に応じてどの地方でもよい。

## 成果とまとめ

毎回、授業開始にフラッシュカードや地図帳を使った地名あてをすることで、児童は地図帳を開いて授業開始を楽しみに待つようになった。また、児童同士で問題を出し合うなど、主体的な学習態度もうまれた。

ここでご紹介した実践は、どれも「楽しく」「自然に（いつの間にか）」「繰り返し」で都道府県を習得させていく活動である。こうした活動に親しむことで、児童の都道府県への興味・関心を高め、効果的に習得できるようにさせることは非常に有効であると考える。

---

【参考文献・資料】
・谷和樹「谷和樹著作集〈No.3〉教材研究にこだわる社会科授業の組み立て方」（明治図書）
・TOSS ランド（http://www.tos-land.net/）

社会　小学校6年生　単元「戦争と人びとの暮らし」

# 興味関心を高め、進んで児童が考える授業を目指して

～サブテーマ～

## 大型テレビを活用した授業実践

川口市立朝日西小学校　教諭　石崎　毅志

## はじめに

新学習指導要領においては、「生きる力」という理念がますます重要となっているという認識に基づき、それを支える確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた育成が重視されている。

そうした中で、特に「学力」の低下についてはマスコミでも数多く報道され、世間の注目の的でもある。新学習指導要領解説総則編によれば、「学力」すなわち「確かな学力」を育成するためには、「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことの双方が重要であり、これらのバランスを重視する必要がある。」と明記されている。

その一方で、「『学力』低下ではなく、『学欲』低下こそが問題である。」という論調も少なからず見られる。実際、多くの教師が「学欲」＝「学習意欲」の低下を実感しているのではないだろうか。

これらを総合すると、学力向上のためには、①学習意欲を引き出すこと、②基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、③思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことが必要だということになる。

こうした点を踏まえて取り組んだ実践について紹介していきたい。

## ね ら い

社会科の授業を進めていくなかで、何となく教科書や資料を見、何となく教師の説明を聞き、何となく板書をノートに書き写しているだけの児童が少なからず見受けられる。「社会的事象にもっと興味関心をもってもらいたい。」「社会的事象について児童自らが考えるようにさせたい。」等は、教師が日々感じている願いである。

これらの課題の解決のヒントになるのではないかと考え、大型テレビの活用及び小グループでの話し合いを生かしたノートづくりの２つを柱とした授業実践を報告させていただく。

## 実 践 例

### (1) 導入の工夫について

社会科の授業において、導入時の資料提示は大きな意味を占めている。しかし、教科書や資料集などの写真や図表、グラフなどの資料は小さいものが多く、細かい部分の読み取りには不向きである。また、個々で資料を見ることになるため、興味関心の薄い児童にとっては「どこを」「どのように」見れば良いかすら分からないこともある。そこで、たいていの場合、教師が必要な資料を拡大したものを準備して黒板あるいは掲示板等に掲示し、全員で見て学習課題を見つけていくこととなる。

ところが、この「拡大した資料の準備」がなかなか困難なことであるのも事実である。大概の学校にカラーコピー機は置いていないので、カラーの拡大資料を作るためには、おおむね次のような手順を踏むこととなる。

①必要な資料をスキャナーもしくはデジタルカメラを利用して、一旦パソコンに取り込む。
②プリンターの拡大印刷機能を使って、９分割とか１６分割といった形でプリントアウトする。
③プリントアウトしたものを貼り合わせて、ようやく一つの資料が完成。
では、モノクロの資料ではどうか。上記の手順の①の部分は不要になるかもしれないが、残りの手順はカラーの場合と同様である。実際の授業で数多くの資料が必要な場合、上記のような作業を数回繰り返すこととなる。とてもではないが、毎回の授業でそんなことをやっている余裕はない。
こうした手間を省き、児童を資料に集中させる「導入」を図るために、大型テレビを活用することを考えた。

各校に配備されている大型テレビの左側面にはＳＤカードスロットが装備されており、デジタルカメラのメディアがＳＤカードである場合、直接挿入することでテレビ画面に映し出すことができる。
手順は次の通りである。
① デジタルカメラで必要な資料等を撮影する。
② デジタルカメラからＳＤカードを取り出し、大型テレビのＳＤカードスロットに挿入する。
③ 大型テレビの電源を入れ、リモコンの「ＳＤカード」ボタンを押す。
④ 見せたい映像を選択し、映し出す。

実際の授業で使った映像が次のようなものである。左上の映像は、沖縄に上陸したアメリカ兵の写真を、右下の映像は東京大空襲後の東京駅周辺の写真を教科書や資料集から直接デジタルカメラで撮り、大型テレビで資料として提示した時のものである。
教科書や資料集では見にくい資料の細部までがはっきり見えるため、児童の集中力が高まり、さまざまな意見が出されることとなった。

### (2) 小グループでの話し合いをもとにしたノートづくりについて

導入で取り組むべき学習課題を把握した児童は、資料をもとに自ら考えながらノートをまとめていくこととなる。

しかし、資料の見方が不十分だったり、キーワードやキーセンテンスが分からず、教科書や資料集の文章をそっくりそのまま写してしまったりする児童も少なくない。

そこで、小グループでの話し合いをもとに、各自でノートづくりをする方法を取り入れた。手順は次の通りである。

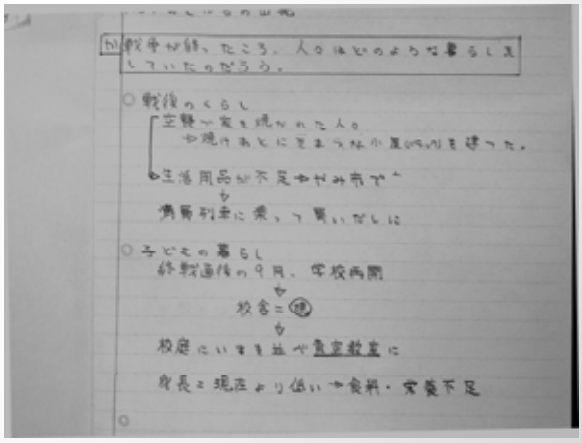
①教科書や資料集等から「キーワード」「キーセンテンス」を話し合いながら探し出す。

②「キーワード」「キーセンテンス」をもとに、関係のある年号や出来事、人物について話し合う。

③話し合いをもとに、できるだけ短くまとめる。できれば図式化を図る。

④最後に、板書及び教師の説明と照らし合わせ、加除訂正を加える。

### (3) 終末の工夫について




小グループでの話し合いをもとにしたノートづくりに取り組んできたが、「できるだけ短くまとめる」「図式化する」といった分かりやすいノートづくりにまでなかなかたどり着かない児童が少なくない。教科書や資料集等の資料に書かれていることの重要度のレベル分けができず、全てが大事なことだと考えてしまうためであろう。

そこで毎時間、工夫してまとめることのできた児童のノートをデジタルカメラで撮影し、大型テレビで見せるようにした。

## 成　果

大型テレビの活用を図った結果、資料に対する興味関心が高まり、児童一人ひとりが学習課題に集中して取り組むようになった。

また、小グループでの話し合いをもとに、資料を活用しながら学習課題の解決を図るようにしたこととその結果であるノートを大型テレビで映し出して皆で評価し合うことにより、児童一人ひとりがそれぞれノートづくりに工夫を凝らすようになり、「社会科が面白くなってきた。」という声が聞かれるようになった。

せっかく配備された大型テレビ。今回紹介した実践例は、機械に詳しくない方でも気軽に実践でき、確実に効果が表れるものである。まずはお試しを。

さらに、パソコンやビデオカメラ等の機器を大型テレビにつなげることにより、また別の授業展開が可能である。子どもたちの学欲向上、さらには学力向上を目指し、レッツ　トライ！

**社会　中学校（地理的分野）～第1学年(世界の姿をとらえよう)～**

# 主な国々の位置をクイズ形式で

# 再チェック！

～サブテーマ～

## 「国旗＆国歌＆童話と、地図帳を併用した班対抗競技」

川口市立北中学校　教諭　松尾　和朋

### は じ め に

全国の中学生のアンケート結果から、中学校社会科で学習する３分野の中で「地理的分野」が最も苦手であるという意見が多いのはここ数年の傾向ではない。その理由としては、国名だけでなく、一度も行ったことのない国々の山地・河川・産物など覚えることが多く、また、日本から見た各国の位置がイメージできないという点があげられる。中学校の場合、学校行事や定期テスト・大会等で年間指導計画通りに授業が進まないのが現状で、単元毎の精選、強弱の調整が不可欠であると考える。そこで、今回は入学直後の１年生がいかに地理の授業に興味・関心・楽しさを感じてくれるか、その実践例の１つを紹介したい。

### ね　ら　い

「世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置」および「日本と経済や文化などの面でつながりが深い国」に関しては、小学校５年～６年生で学習済みである。よって、中学校ではそれを周知したうえで、小学校で学習した知識や関心を生かせる指導を継続することが大切である。そこで、中学校地理学習の導入段階として学習班（４人組）を軸に、生徒達がお互いに意見を出し教え合い、競争し合う班対抗のクイズ形式を実践してみた。その際、全員に各自の地図帳を活用させると共に、最後は教師が掛け地図を用意し確認することが基本的な作業である。

### 実　践　例

☞　次の（1）～（3）のクイズ終了毎に必ず地図帳（世界地図）でその国の位置を確認させ、国名を色ペンでチェックさせる。その際、日本からの大まかな方角や距離を感じ取らせる。（更に教師が掛け地図で確認をする。）

**(1)　初級レベルクイズ(地理クイズ：どこの国の国旗でしょう？)　～社会科関連問題～**

① 国旗は小学校でも授業で活用され、驚くほど多くの国名を知っている生徒もいる。ここでは、殆どの班に意欲的に挙手し発言しょうとする基本姿勢を持たせるために、生徒にとって比較的身近で知名度の高い国の国旗をフラッシュカード形式で出題。
（日本からの輸入額が特に多い国の中から選択して、出題してみた）
【例：アメリカ合衆国・中国・大韓民国・イギリス・フランス・カナダ】
②１問毎に最も早く挙手・正解した班が１得点。（黒板の隅に教師が得点を記録集計）

**（2）　中級レベルクイズ（地理クイズ：どこの国が舞台の童話でしょう？）　～国語科関連問題～**

① 各班に代表的な６つの童話の内容を表す絵（マンガ）を印刷したプリントを人数分配布。その童話の題名を各班で５分間相談し合い、最後に各班で結論(１つの答え)を別紙の１枚の用紙にまとめあげ、全班分を黒板に掲示する。
【例：人魚姫・西遊記・フランダースの犬・赤毛のアン・シンドバッドの冒険】
② 全ての班が掲示し終えたら、班の代表者１名が教師の正解発表にもとづいて、掲示してある用紙に赤マジックで〇・×の採点をする。
③ １問正解で２得点。全問正解は１２点。（黒板の隅に教師が得点を記録集計）

### （3） 上級レベルクイズ（地理クイズ：どこの国の国歌でしょう？） ～音楽科関連問題～

① スポーツ関係の世界大会（オリンピックなど）でよく耳にする諸国の国歌だが、なかなか大人の判断でも国名と一致しない。そこで、（1）・（2）のクイズで確認した国の中から代表的な５カ国の国歌にしぼって「音楽テープ」で出題。１カ国の国歌を流す時間は２０秒～２５秒程度。（日本の国歌もサービス問題で流すとよい）

【例：アメリカ合衆国・中国・イギリス・フランス・ブラジル・日本】

※ 主な国の国歌演奏時間（陸上自衛隊中央音楽隊演奏による）

イギリス（３９秒）、中　国(４０秒)、日　本（５７秒）、韓国・インド（１分）
フランス（１分7秒）、アメリカ合衆国（１分２０秒）、ブラジル（１分３１秒）

② １曲ごとに演奏後、班毎に相談し合う時間を１分もうけ、配布した用紙に記入。

③ ５曲終了後、再度検討時間を２分程度もうけ、最終の答えを完成し黒板に各班毎の用紙を掲示する。全ての班が掲示し終えたら、班の代表者１名が教師の正解発表にもとづき、その掲示してある用紙に赤マジックで〇・×の採点をする。

④ １問正解で３得点。全問正解は１５点。（黒板の隅に教師が得点を記録集計）

### ⑷ 総合結果の発表と次時内容の予告

・（1）～（3）のクイズの総合得点を集計後、１位～３位の班を発表
（全員で大きな拍手で讃え合う）。

・ 表彰として各自のスタンプカードに賞賛のスタンプを押し、学期毎に成績資料の一部とする。
（全班に得点を与える）

※【スタンプの数】
１位の班員（４個）、２位の班員(３個)、３位の班員（２個）、４位以下の班員（１個）

・ 次時は「いろいろな国の面積・国境線を調べよう」という計画になっているが、その前にある程度、主な国々の位置を生徒各自が頭の中で常にイメージできるようにならないと今後の地理の授業は難しい。そのためには、日本から見たおおまかな世界地図（略地図）をえがけることが不可欠。そこで、次時の授業中の作業短縮のためにも前もって家で地図帳をしっかり見てくることや、主な国々の位置の再確認をしておくなどの課題（予習）を出しておく。

### ⑸ クイズで使用するプリント （☞シンプルなもので可）

〈中級・上級クイズ両方共に同形式〉

《地理クイズ：〇〇〇〇　〇〇〇〇〇？》
１年（　）組（　）班

| | | | |
|---|---|---|---|
| ① | | ④ | |
| ② | | ⑤ | |
| ③ | | ⑥ | |

## 成　　果

班活動の真の目的は、話合いや作業を通して、班員が相互に教え合い学び合うことにある。その点から考えると、今回のクイズ形式の発表合戦は、生徒達が実に活発に楽しそうに活動できた授業であった。当然、今回のような形式で毎時間授業を行うことは進度の点から難しいが、生徒達はテレビ番組の影響もあり、学年関係無しにチーム(班)で競争し合うことは大好きである。社会科以外の領域の内容もうまく活用することによって、教師側の教材・資料・発問の工夫しだいで生徒一人一人が持ついろいろな秘めた知識を引き出せ、全員が活躍できる場を必ず設定できるものと考える。

**社会　中学校　地理的分野　単元「世界の姿をとらえよう」**

# 世界地図を読む基礎的な力をつけよう

**～サブテーマ～**

## スポンジボールを活用した実践

**川口市立青木中学校　教諭　鈴村　聡**

### はじめに

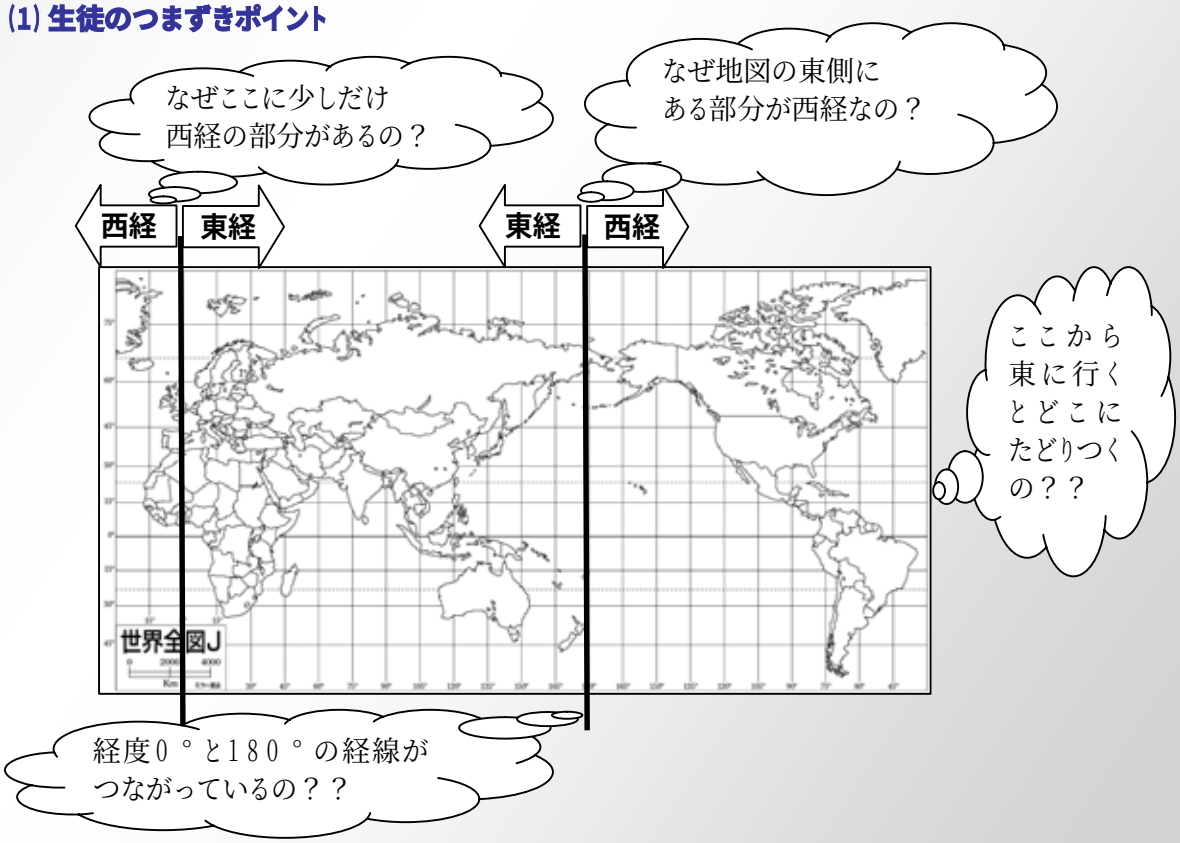
中学校の社会の指導を地理的分野から始めると、まず多くの生徒につまずきが見られるのが、「緯度と経度」「地球儀と地図」を教えるときではないでしょうか。立体の世界を平面の世界に置き換えるのが苦手な生徒が多く、世界地図の掛図を使った授業で、南米大陸を東に行き、地図が切れたところで「この先には何がある」と生徒に質問すると、答えられない生徒も少なくありません。経度の授業で、本初子午線の裏に１８０°の経線があることや、本初子午線を基準に東経、西経の世界があることを、地球儀を使えば理解できるが、地図になると理解できない生徒が多いといえます。特に日本を中心に描かれた地図を見る機会が多いためか、地図の左端から「西経→東経→西経」となることが理解しにくいと考えられます。

### ね ら い

立体の世界を平面の世界に置き換えるのが苦手な生徒のために、球体のスポンジボールを実際に切って平面に近づける作業を行い生徒の理解を深めたいと考えます。よくペーパークラフトなどを用いて、球体を展開して平面図を作るという作業も行われますが、それに比べて、スポンジボールを用いた授業は準備も簡単にでき、生徒の理解も深まるという利点があります。

### 実 践 例

**(1) 生徒のつまずきポイント**

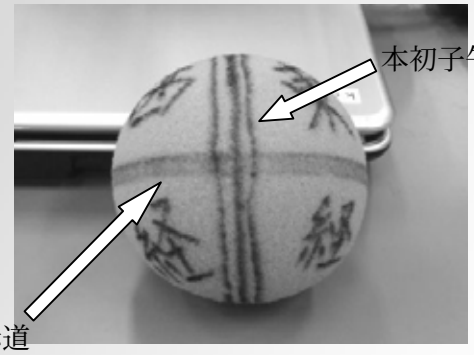


### (2) 準備

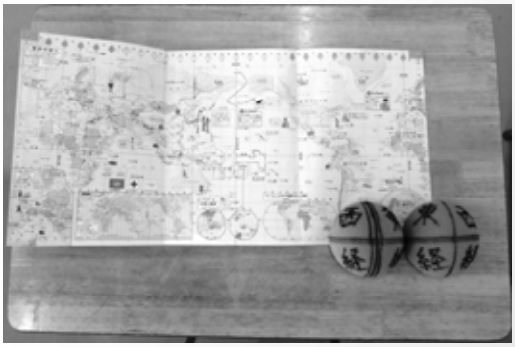
玩具店等で売っているスポンジボールを準備します。比較的安価で手に入ると思います。大きさは取り扱いやすいように手のひらサイズがおすすめです。

### (3) 授業での展開例

①地球儀を見ながらスポンジボールに本初子午線、180°の経線、赤道、東経の部分、西経の部分を書き込ませます。このボールと地球儀を併用しながら、立体的に東経と西経の空間を捉えさせます。



②スポンジボールを半分に切って展開します。普段、生徒がよく目にする日本が中心の世界地図の形に近づきます。地図帳にある世界地図と比較させ理解を深めます。



③半分に切ったスポンジボールを地図の形に近づける行程を生徒に体験させながら「生徒のつまずきポイント」を確認させます。

## 成　果

(1) 次の項目において、生徒の理解が深まるようになりました。

①地球を東西に割る経線（本初子午線、180°の経線）が、地図上では2本になって表されること。

②日本を中心とした地図上での東経と西経の範囲。

③地球を南北に割る赤道は地図上では1本で表されること。

④地図の右端と左端は実際はつながっているということ。

(2) 中学校に入学後、社会の授業で最初につまずきやすい単元において、生徒に理解できる喜びを実感させることにより、中1ギャップを軽減することができたのではないでしょうか。

# 算数　小学校

# ノート指導の工夫

～サブテーマ～

## 今日からできるノート指導

川口市立領家小学校　教諭　　河村　昭彦

### はじめに

昨今、ノート指導に関する書籍をよく目にします。教員向けから保護者向けに出版されたものまで様々です。それだけ、ノート指導の重要性が高まっていると言えるのではないのでしょうか。そこで、日頃実践しているノート指導について整理し、まとめてみることにしました。

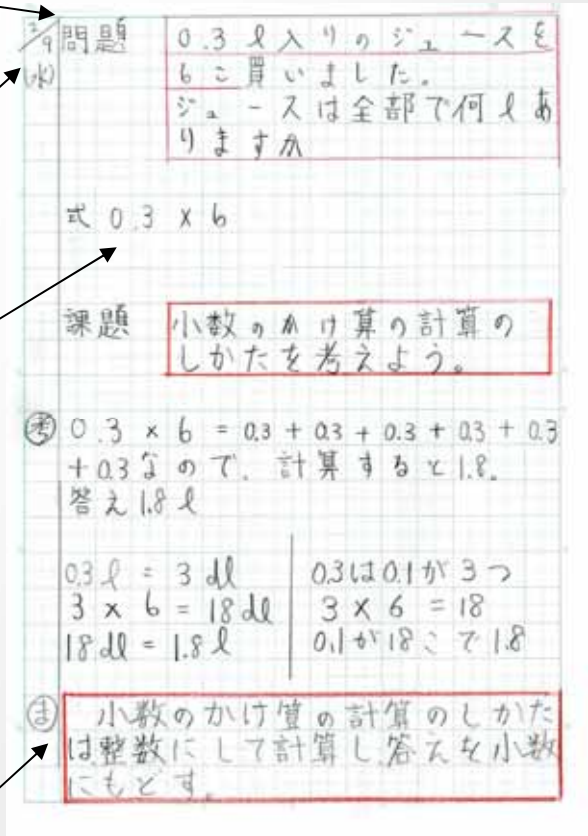
### 実 践 例

**（1）ノートの形式を検討する**

①罫線型がよいでしょうか？方眼型がよいでしょうか？方眼型が線や図形、表・グラフ等を作成するときに便利なことが多いので、方眼型をお勧めします。

②方眼の大きさは何㎜がよいでしょうか？１㎜から様々あります。児童の実態にもよりますが、１０㎜（１㎝）が図形の作図のときに便利だと思います。

**（2）基本的な使い方を確認する（ノートの約束）**



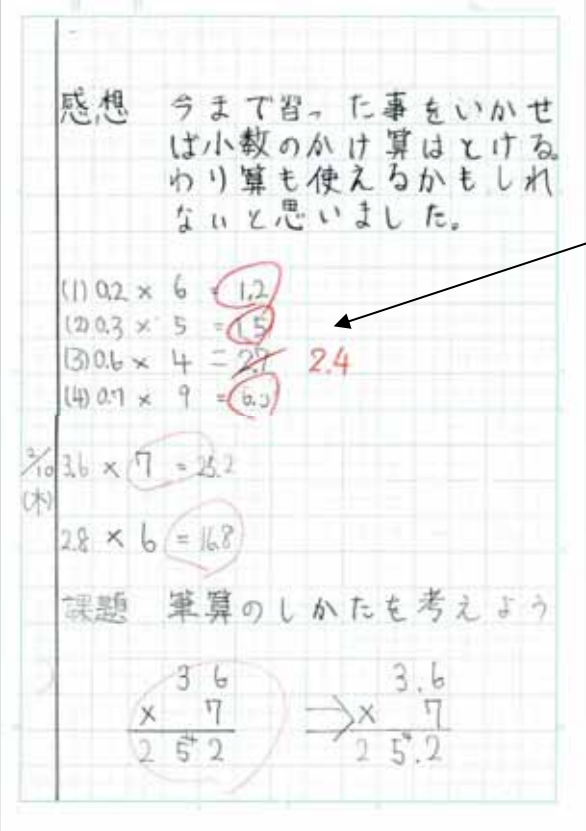

①左端縦１列目に縦線を入れます。日付やページ数・問題番号等を記入するスペースを作ります。

②日付を入れます。ある有名な附属小学校で、授業回数のナンバーを記入させている先生もいらっしゃいました。

③１マスに１文字（数字・記号も）が原則です。小学校では国語のみならず、常に「ノートの文字は丁寧に書くこと」を指導しています。丁寧に書かせるには１マスに１文字を徹底します。特に算数の筆算のときに、マスを意識させることが位をそろえることにつながります。分数もやはり分母・分子それぞれに１マス使うことを指導します。（ただし、学年が進むと桁数が多い数字を扱うようになりますので、臨機応変に対応することも出てきます。）

④直線は定規を使います。直線、図形の作図、数直線、表・グラフ、筆算の線、分数の線、問題・課題・まとめ等の囲みの線等全てです。算数の授業には直線を使う場面が多いです。面倒がらずに定規を使わせましょう。もちろん、教師も板書の際に、定規を使うことを忘れずに。

⑤色の使い分けを統一します。問題・課題、まとめなどを囲む線の色は、赤・青の２色くらいで使い分けることが適当でしょう。




⑥消しゴムは使わせません。自分の考えや計算のミスなども消しゴムはなるべく使わないように指導をします。自分の思考を残し、振り返られるようにしたいからです。文字の間違えは消しゴムを使うかどうかは児童の実態に合わせるとよいでしょう。

### （３）種類のノートの使い分ける

①授業（板書）用ノート

問題解決的な授業を展開するとき、児童が課題を解決するために考え方を書かせるノートです。１時間（１課題）見開き２ページを原則とします。問題・課題・（予想・見通し）・考え方・まとめ・適用問題・授業感想といった一連の流れを書きます。思考の流れが分かりやすいようにまとめさせます。初めはレイアウトを教師が示し、型を身に付けさせると良いでしょう。題材によっては、見開き２ページにならないこともあるので、見開きにまとまるようにワークシートを活用するなどの工夫をしましょう。

②計算用ノート

計算練習をするときに使用するノートです。教科書の練習問題やドリル問題用ノートとして活用します。最近では、出版会社作成している繰り返し計算用ノートもあります。便利に作られていますので、活用するのも１つの方法です。

③問題作り用ノート

単元のまとめのときやドリル的な課題が早く終わった児童には、読書ではなく（算数の時間なのに「読書」？有り得ません！）、その単元で学習したことを使って問題作りをさせます。「先生に挑戦問題を作ってごらん」と言ったり、学級通信等で取り上げたりして意欲化を図ります。

### （４）評価し、賞賛する

算数科のノートを評価するとき、丸つけで点検を終わりにしてしまうことがあります。子どもの意欲が高まるように、適切な評価をしていきましょう。

①授業中に丸をつけて、コメントをし、評価をします。机間指導をしながら赤ペンでコメント等を書いていきます。評価シールを貼っていくのも１つの方法です。

②できる限りノートを集め、点検し、コメントをし、評価につなげます。

③よいノートは、お手本として取り上げます。まとめ方の上手なノート、工夫がされているノートはコピーして掲示したり、学級通信等に掲載したりすることで評価をしていきます。

## ま　と　め

「今日からできる」とサブテーマに謳いましたが、やはり意図的・計画的に進めることが必要になります。１つの学級から実践することもできますが、学年・学校で共通理解を図り、組織的に効果的に取り組むことが望ましいです。学年が変わっても同じ指導が通るのと通らないのとでは差が出てきます。一番困惑するのは子どもたちです。学年の初めからにスムーズに学習に取り組めるよう、十分に検討して、学校で統一したノート指導を進めることが大切です。

算数　小学校

# 比較検討場面の指導

～サブテーマ～

## ３年生「２位数×２位数」の比較検討場面の指導をとおして

川口市立戸塚北小学校　教諭　相樂　雅彦

## はじめに

私たちは、問題解決的な流れで算数の授業を行うことが多い。問題解決の過程とは、

問題提示 ― 見通し ― 自力解決 ― 比較検討 ― 活用問題 ― まとめ

という段階で進めていくことになる。このような過程を基本に捉えて指導に当たった場合、なかなかうまい具合に指導できないのが「比較検討」の段階である。比較検討がうまくいかない場合は

子どもから出される質問や意見を適切に処理できず、はい回る状態になってしまう。

または、

出された考えが生かされず、いつの間にか教師の意図にあった考えだけが「いい考え」として取り上げられる結果になってしまう。

場合があげられる。

そこで、「比較検討」場面での指導の視点を提示させていただきますので、参考にしてください。

## 実 践 例

### (1) 3年「かけ算」16×24の求め方を考える学習の例

ここでのねらいは、「乗法の意味やきまりを用いて、16×24の計算方法を発見させるとともに、×2位数の計算は、分配法則を用いるとよいことに気づかせる」ことである。教科書では12×23であるが多様な考え方を児童から出させるために16×24で行います。

まず、比較検討の場面を以下のように3つに分けて考えていきます。

比較検討の場面

1 【代表例を発表させ、理解する場面】
ここでは、自力解決した1つ1つの考えについて、その考え方1つ1つを理解る。質問があれば、ここで行う。発表する順番はこだわる必要はない。

2 【代表例の相違やよさを話し合う場面】
ここでは、簡潔さ等の数理的処理のよさの観点から、その考えのよさや相違を考えたり、互いの考えの関連を検討したりします。

3 【練り上げの場面】
ここでは、検討したことを参考にしたり、提示された問題を解いたりして、最もよいと思う考えを話し合いをとおして選択します。

**(2)「比較検討」の構想図を書いておき、指導に生かします。以下に例を示します。**

**課題**

16×24の計算の仕方を考えよう

**児童の反応**

A
16×10＝160
16×10＝160
16×　4＝　64
160＋160＋64
＝384

B
16×20＝320
16×　4＝　64
320＋64＝384

C
16×　8＝128
128×3＝384

D
16×　6＝　96
96×　4＝384

**・乗数である２４をどのように分解したのかを明確にします。**

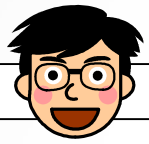
**1 理解の場**

A
24を10と10と4に分けている。

B
24を20と4に分けている。

C
24を8×3にわけている。

D
24を6×4にわけている



**発問「かける数の２４の分け方で発表された計算の仕方を、仲間分けしてみよう。」**

**2 比較の場**

24の分け方について話し合う

AとB
24を10と10と4や20と4のようにたし算で表して計算している
位ごとに分けて考えている

CとD
24を8×3や6×4のようにかけ算九九に分けて計算している。

**・既習を使っているよさをおさえ分配法則と結合法則のいずれかを用いて解決していることに気づかせます。**

どちらも今まで学習したかけ算九九や何十のかけ算を使っている

**3練り上げの場**

いつでもできるか確かめる。　12×23や19×43の計算を行う。

**指示「２つの方法を使って計算してみましょう。」**

AとB
・位ごとに分けての考えは、どの問題もできる。・10と10と4に分けての考えは、20と4に分けて考えるのと同じだ。

CとD
・23や43をかけ算九九に分けることはできなかった。

**かけ算九九にした考えは数値によってはできないことから乗数を位ごとに分ければ数値が変わってもいつでも使えることに気づかせます**

かける数を位ごとに分ければ、かけられる数やかける数が何桁になっても今までの計算が使える

**まとめ**

かける数が何十何の計算は、かける数を位ごとに分けるとどんな数でも計算できる。

**指示「今日の学習で便利だなと思ったことをノートに書きましょう」児童の言葉から、乗数を位ごとに分けるとどんな計算もこれまでの計算を使って処理できるよさがあることをまとめます。**

## まとめ

比較検討の場面を充実することによって個々の児童の考えや数学的コミュニケーション能力が育ちます。また、構想図を教材研究することで、教師も児童の考えを生かした比較検討ができるようになります。

＜参考文献＞多様な考えの生かし方まとめ方　古藤　怜　著　東洋館出版

# 数学　中学校

# 個に応じた学習支援の実施

～サブテーマ～

## 学び直しの場から学習意欲の向上へ

川口市立安行中学校　主幹教諭　木村　達夫

### はじめに

数学は系統性の強い教科です。生徒は、１つのことが理解できないと、次のステップをクリアすることが難しくなります。そして多くの生徒は、単元･章が進むにつれ、さらには学年が進むにつれ、ハードルが高くなっていくように感じ、苦手意識を少なからず持つことがあると思います。しかし、逆の発想をすれば、以前に学習で習得した知識を想起することを中心に、直感力や問題を見通す力、問題を解決する力を加えることで解決方法を見出すことができると考えます。一つ一つ既習事項を想起することで解決への手掛かりをつかむことができ、一つ一つ解決していくことで自信をつけることができ、次は自ら取り組んでいこうという意欲をかきたてることができると思います。既習事項を習ったこととしてとらえ、習ったことをしっかり整理し、さらなる課題解決への意欲を導き出すため、学び直しのできる学習環境を作り出すことを考えました。

### ね ら い

学校生活の大半は授業です。その授業についていけなかったり、内容が全く分からなくなってしまったりすると誰でも意欲を失い、学校生活にも意欲を失いがちになります。そもそもこの「学び直しのできる環境作り」は生徒指導的な面で導入されてきました。しかし、生徒一人ひとりが授業の中で力を発揮できる場面を用意しその中で自己肯定感を抱かせ学校を立ち直らせ、ひいては学力向上にもつながるはずだと考え、取り組んでいるところです。

### 実 践 例

**(1) 土曜補習講座の実施**

学年が変わってはじめての中間テストの前に全校生徒を対象に土曜補習講座を行いました。

①ねらい

基礎基本の定着を図り、学習意欲の向上を図る。また併せてテスト前に補習を行い、テストへの取り組みの強化を図る。

②　日　程

| | | | |
|---|---|---|---|
| １年生 | １校時…国語 | ２校時…数学 | ３校時…英語 |
| ２年生 | １校時…英語 | ２校時…国語 | ３校時…数学 |
| ３年生 | １校時…数学 | ２校時…英語 | ３校時…国語 |

③　内　容

・クラス単位でプリント学習を中心にわからないところなどを質問する場とする。

・教科は３教科とし基礎学習を重点的に行い、中間テスト対策も行う

数学科の教師は１校時３年生、２校時１年生、３校時２年生の教室を担当し他教科の学年教師とクラスについた。また、ボランティアで協力してくれる保護者の募集も行い、クラスに

は教科担当の教員、他教科の教員、ボランティアの保護者がつく形で生徒をサポートしました。
　テストに向けての補習ということで生徒の意欲も高く、積極的に質問をするなどわかろうと努力していました。２学期も同じく中間テスト前に行いました。学年単位で実施し、１年生全員対象、２・３年生希望生徒で行いました。２、３年生は希望生徒ということで全員参加の時よりもやる気が感じられましたが参加生徒は約５割程度でした。しかし、保護者のアンケートでは実施を歓迎する声が多く、今後もぜひ続けてほしいという要望が多くありました。

### (2) 放課後の寺子屋

①ねらい

　１，２年生の時に学校を休みがちで基本的な内容が身についてなく、正負の数の計算から苦手で文字式になると投げ出してしまうような生徒にも学び直しができるように基本的な内容をピックアップし、週に３日、４０分程度で繰り返し基礎の計算を行いました。

②内　容

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 9 | + | 6 | = | | |
| 2 | 1 | + | 6 | = | | |
| 3 | -9 | + | 4 | = | | |
| ⋮ | ⋮ | | ⋮ | ⋮ | | |
| 160 | -1 | | -5 | = | | |

　左記のようなプリントを表計算ソフトで作成し、数字のセルはランダム関数で様々な数字を出し解答も作成します。A4の用紙1枚に160問程度作成できますが1日に3枚もやると疲れてしまうぐらいでしたが要領がわかると苦手な生徒でも短時間でできるようになっていきました。

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 7 | a | + | 1 | a | = | |
| 2 | 9 | a | + | 7 | a | = | |
| 3 | -1 | a | | -9 | a | = | |
| ⋮ | ⋮ | | | ⋮ | | | |
| 160 | -2 | a | | -5 | a | = | |

　それをさらに発展させ単純であるがとなりのセルに文字を付け加え文字式の計算に発展させます。すると文字式になると投げ出してしまっていた生徒も徐々に同類項の計算に慣れていきました。このようにして正負の数の計算に関する苦手意識を取り除き1次方程式の計算に持って行きました。ランダム関数はとても便利な関数で様々な繰り返し問題を大量に作成することができます。このような計算プリントには向いていると思います。

### (3) 夏季休業中の補習

　夏休みの宿題等を中心に各学年とも3日～5日程度の補習を行っています。学年により指名して参加者を決定する場合もあるが、希望者を募り実施している。数学科では学校独自の数学検定に取り組もうと検定用の問題を作成したが1学期中に実施方法で折り合いがつかず実施できずにいたがその問題を部活動の練習の前や後に使用してもらうことで補習を行いました。
　各部活動ごとに利用してもらい少しでも計算力の向上につながればと考えました。
問題は１０級　正の数・負の数　９級　文字と式　８級　一次方程式　７級　式の計算
６級　等式変形・式の値・比の性質　５級　連立方程式　４級　式の展開・因数分解
３級　平方根　２級　二次方程式　１級　入試問題の研究（昨年度の冊子に載せたもの）
各級とも１枚につき１０問程度で１０枚程度の問題があり、自分で取り組むには手ごろな枚数である。今後は本校独自の数学検定に発展させていきたいと思います。

## 成　　果

　本校では生徒支援加配の教員による不登校生徒や精神的に不安定な生徒への学習支援（ステップルーム）、やや問題傾向のある生徒への学習支援など多様な生徒への学習支援を行っています。保護者にも協力を呼びかけ多くはないが協力者もおり、今後は学校応援団の協力を得るなど生徒の学び直しのできる環境作りは徐々に形をなしてきています。
　今後は学校独自の検定問題を生徒の苦手な数量関係編や図形編にまで広げ、生徒自身が「もっと勉強がわかるようになりたいと」いう気持ちを育てていきたいと考えています。

# 数学　中学校

# 計算力の向上と学習習慣の定着を図る

**～サブテーマ～**

## 数学計算コンテストと家庭学習帳の取り組み

**川口市立安行東中学校　教諭　桶舎　真一郎**

## はじめに

数学においては、計算領域でのつまづきが、数量関係や図形の学習にも大きく影響してきます。そこで、数学でのつまづきを解消するためには、計算力を向上させることが重要であると考えました。ここでは、その実践例を紹介したいと思います。

## 実 践 例

### (1) 数学計算コンテストについて

本校では、１学期末に以下の手順で全校的に数学計算コンテストを行っています。

**朝自習での計算練習**
1日20問の計算練習を1週間行います。
採点は、自己採点で行います。

↓

**計算コンテストの実施**
計算練習の問題の中から50問のテストを行います。

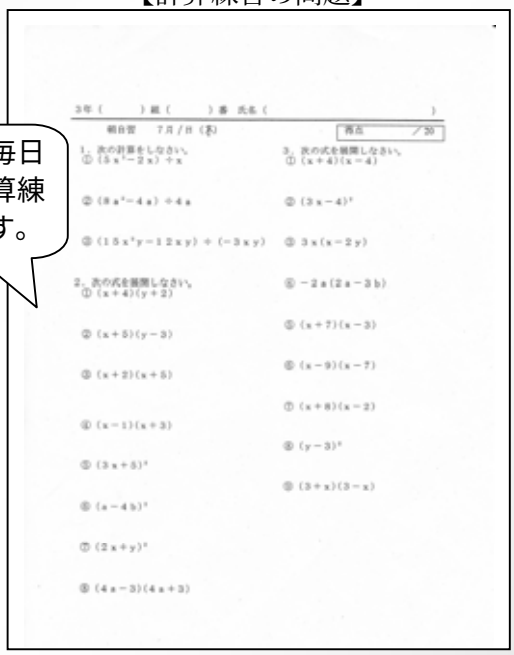
↓

**合格者の発表**
学年だよりを通じて、80点以上の生徒を紹介しています。
満点の生徒には〇印をつけて紹介します。

↓

**補習の実施**
点数の低い生徒は長期休業中に補習を行います。

【計算練習の問題】



朝自習で毎日２０問計算練習をします。

【計算コンテストの問題】

朝自習の問題の中から、５０問のテストを行います。

## (2) 家庭学習の定着に向けた取り組み「BBS」について

本校では、BBS(Base Buildup Study)という名前で、全校的に家庭学習の定着に向けた取り組みを行っています。

①実施方法

・与えられた家庭学習の課題を毎朝提出します。
・点検は、毎日担任が行います。
・課題は各教科とも20分～30分程度とします。

【3年生の例】

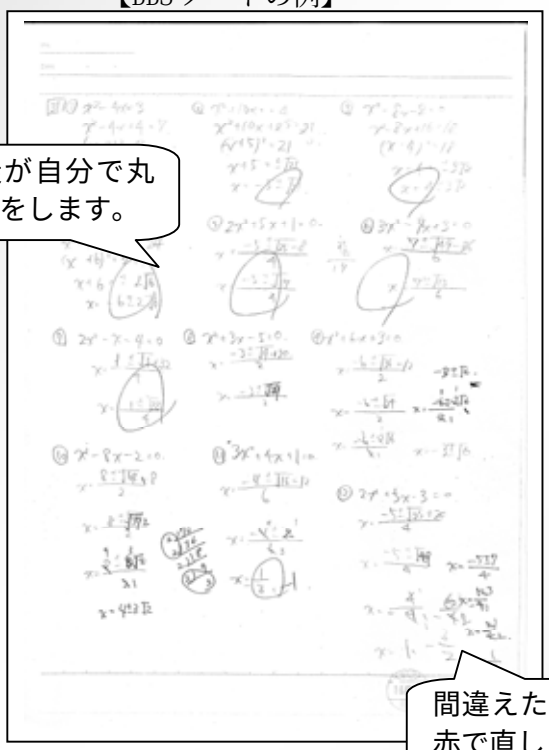
| 曜日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 教科 | 国語 | 数学 | 英語 | 国語 | 数学 |

国語:問題集の漢字の書き取り。
数学:計算用の問題集の指定されたページに取り組み、丸つけまで行う。
　　間違えた問題は，正しい答えを赤で記入する。
英語:問題集の英文の書き取り2回ずつ。

②その他

・数学については、BBSの問題も定期テストの範囲となります。
・通知表の所見を通じて提出回数を知らせています。

【BBS ノートの例】



生徒が自分で丸つけをします。

間違えた問題は、赤で直します。

【生徒の声】

Q. BBSは「計算力」の向上に役立っていると思いますか。

| | |
|---|---|
| A:役立っている | 48.6% |
| B:どちらかというと役立っている | 36.4% |
| C:どちらかというと役立っていない | 5.6% |
| D:役立っていない | 9.3% |

Q. BBSに取り組んできて感じたことは？

・BBSをやっているうちに、毎日勉強する習慣が身についた
・家に帰ってから何を勉強していいか分からないから、BBSがあると勉強しやすかった。
・数学は最初から答えが配られていて、ついつい見てしまうので、答えは後から配った方がいいと思います。

## 成果と課題

・3つの達成目標、効果の検証結果において現3年生は1年生から2年生にかけて9.3ポイント、2年生から3年生にかけてさらに3ポイント上昇しました。
・計算コンテストの合格者名を学年通信で紹介されることで、達成感を味わうことができました。
・通知表の家庭欄には、「毎日BBSノートを提出していることを知り、安心しました。」などの感想をいただいています。
・BBSを学校に来てからやっていたり、答えを見てかいているなどの課題があります。

# 理科　小学校「理科室経営」

# 理科室の環境づくりの工夫

**～サブテーマ～**

## 理科好きな児童を育てる理科室の環境づくり

**川口市立芝西小学校　教諭　岡部　慎次郎**

## はじめに

子どもたちは、日常生活の中で自然に親しむという体験が少なくなっている。そこで、自然の驚きや感動を感じる機会を提供する場としての理科室の環境づくりが大切になってくる。理科室の中で生き物や化石、鉱物等が観察できたり、科学の情報を手に入れたりすることができれば、子どもたちの理科に対する興味・関心は高まっていくのではないかと考えた。常に自然が感じられるような理科室をつくりたいと思う。

## 実 践 例

（１）理科室の環境づくりのポイント

① 観察･実験器具がいつでも使える理科室

飼育・栽培している生き物を観察するのは授業時間だけではない。休み時間等も子どもたちが観察したいと思った時に自由に観察できるように虫眼鏡等を準備しておく。虫眼鏡を利用して、水晶や方解石等を観察したり自分の家から持ってきた化石や鉱物等を観察したりする姿がよく見られた。今後は、顕微鏡等も設置したいと考えている。

**群馬県戸神山産紫水晶**

**北海道産アンモナイト**

② 科学の情報がいっぱいの理科室

理科の学習で学んだことを自由に情報交換できるコーナーを作ると、科学に対する興味・関心が高まり、子どもたち同士のかかわりも多くなる。また、科学に関連したイベント（科学館・博物館・公民館等）のポスター等も掲示するとよい。

**児童のノート**

**科学のイベントポスター**

③ 科学コーナーのある理科室

子どもたちが休み時間等に自由に観察ができるように図鑑や資料、科学雑誌等を集めた科学コーナーを設置する。また、鉱物標本や化石等を自由に見たり、触れたりすることができるようにする。理科好きな児童を育てるためにも、低・中学年から鉱物標本や化石に触れさせたいと考える。（化石は恐竜やアンモナイト等とても古いイメージがあり男子児童は興味を持つが、女子児童はそうでもなかった。しかし、鉱物標本や採集した水晶や紫水晶を展示したところ、女子児童にも大変好評であった。）

**科学に関する書籍**

**福島県塙町産貝化石**

④ 生き物がいっぱいの理科室

理科室で生き物を飼育すると成長を継続的に観察することができる。また、生き物の生命に対する心情も育てることができる。ハムスター等の小動物やヒメダカの飼育は５学年の理科の学習に大変役に立つ。また、ヒメダカとの誕生の仕方を比較するために、熱帯魚のグッピーやヨツメウオ（卵胎生）を飼育することは子どもたちの興味・関心を高めるよい方法である。また、学年園（教材園）とは別にベランダなどで学習内容に応じた植物（インゲンマメ・アサガオ・ホウセンカ等）を栽培しておくと、学年園（教材園）まで行かなくてもすぐに学習に活用できる。

**ハムスター**

**ヨツメウオ**

## まとめ

児童の興味・関心が高まるような理科室の環境づくりはすぐにできるものではない。時には児童の意見に耳を傾けたり、児童といっしょに環境づくりを行ったりすることも必要である。今後も理科好きな児童を育てるためにも、魅力ある理科室を作っていきたい。

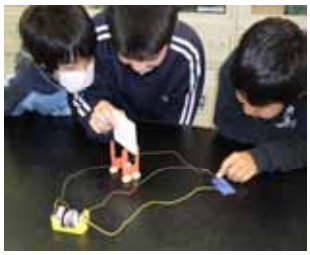
# 理科　小学校　第6学年　「電気の利用」

# 実感を伴った理解を図るための教材の工夫

**～サブテーマ～**

## 電流による発熱量を視覚的にとらえる工夫

**川口市立戸塚綾瀬小学校　教諭　朝倉　伸行**



## はじめに

新学習指導要領では、第6学年の学習に、新たに「電気の利用」の内容が追加された。この内容は、「エネルギー」についての基本的な見方や概念を柱とした内容のうち、「エネルギーの変換と保存」、「エネルギー資源の有効利用」にかかわるものである。今回は、その内容に含まれる「電熱線に電流を流すと発熱し、電熱線の長さを一定にして、電熱線の太さを変えると発熱する程度が変わること」を、児童に、どのようにしてとらえさせるかを視点とした教材研究を行った。

## ね ら い

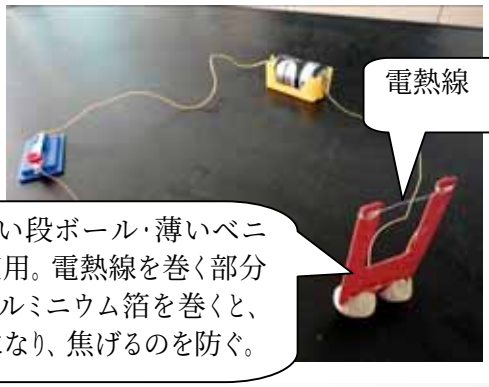
○電流による発熱量を視覚的にとらえる教材の工夫

## 実 践 例

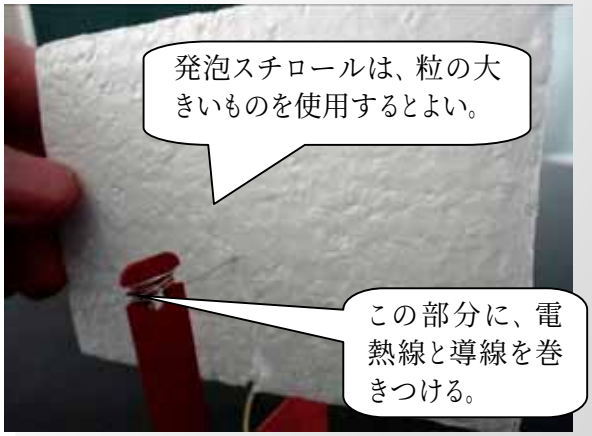
○導入　～　電流による発熱を視覚的にとらえる教材の工夫　～

児童に、電流による発熱をとらえさせるために、発泡スチロールを切るスチレンカッターの原理を活用した。

＜実験装置の例＞

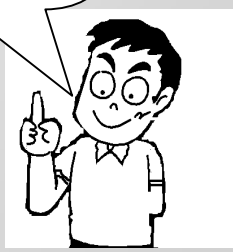



厚紙･薄い段ボール･薄いベニヤ板を使用。電熱線を巻く部分には、アルミニウム箔を巻くと、断熱材になり、焦げるのを防ぐ。




ここでは、回路に電流を流す前は、電熱線部分で発泡スチロールは切ることができないが、電流を流すと、電熱線部分で発泡スチロールが切れることを、教師が事象提示した。その違いがどうして起こったのかを児童に考えさせることで、電流が回路に流れることによる発熱をとらえさせた。

回路に電流を流すと、電熱線の部分で、発泡スチロールが切れるのはどうしてかな？

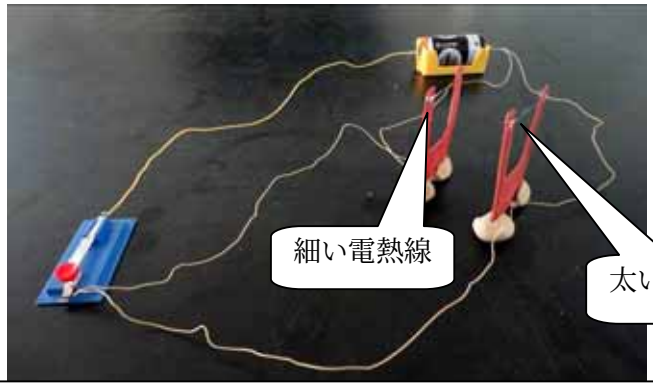


＜現象＞　発泡スチロールが切れる。　→　＜見方･考え方＞　熱の発生

＜現象＞　電流を流すと発泡スチロールが切れる。　比較　→　<見方･考え方>　電流が流れることによる発熱

○展開　～　電流による発熱量を視覚的にとらえる教材の工夫　～

＜実験装置の例＞



○ポイント

2つの乾電池を使うことで、容量の違いが現象の違いの要因にならないように、条件を制御する意味で、長さが等しく、太さの違う2種類の電熱線を並列につなぎ、1個の乾電池を使用して回路をつくる。実験を同時に進行できるので、条件の違いが明らかになり、実験の時間の短縮にもつながる。

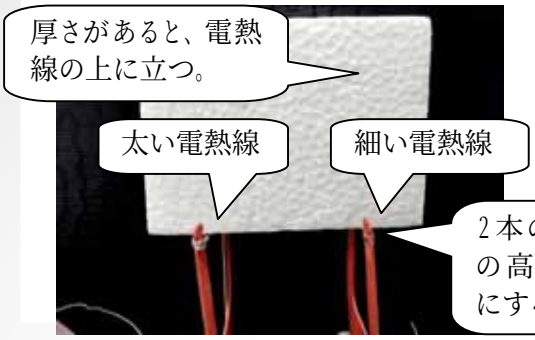
●注意

・マンガン乾電池を使用すること。(電流量が少ないと発泡スチロールが溶け始める時間がかかるので、新しいものを使うとよい。乾電池は、単一乾電池1個で十分。

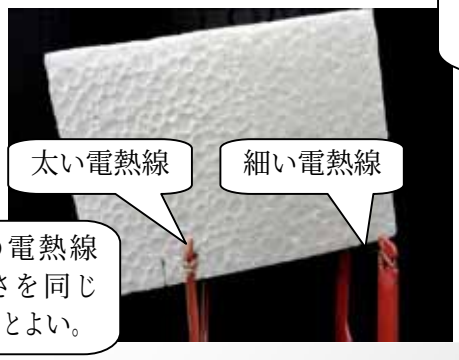
・発熱している電熱線に触らないなど、やけどに注意するように声かけをする。また、発泡スチロールを切り終えたら、回路のスイッチを切ること。

○実験の結果からの考察

＜電流を流す前＞
2つの電熱線の上に発泡スチロールを置く。




＜電流を流した後の
発泡スチロールの様子＞



＜現象＞
太い電熱線の方が、発泡スチロールをよく切った。

＜見方･考え方＞
太い電熱線の方が、たくさん熱が出た。

また、この学習が、実際の生活との関係への認識を含む理解へつながるように、生活の中でどのように役立てられているかを調べるように、児童へ投げ掛けた。

ちなみに、教科書では、発熱を調べる装置として、液晶温度計やサーモテープを利用した装置が紹介されている。

## 成　果

導入で発泡スチロールが切れることと発熱の関係をとらえさせたことや、展開の実験は、電熱線の太さと発熱量の関係を、実験結果に基づいた考察の手立てとなっていた。また、発熱量を温度の違いから推論することも考えられるが、発泡スチロールの溶け方の違いも、児童が推論する手立てとして効果があることを感じた。

# 簡単なモーターつくり！

～サブテーマ～

## 整流子のない簡単なモーターを製作する

川口市立戸塚中学校　教諭　石塚博一

### はじめに

単元「電流とその利用」において、モーターが、動き続ける為には、整流子が必要である事を学習するが、本当に整流子がないと周り続けないのだろうか？　と発問・・・、発展の学習として扱っても良いと思う。いずれにしろ、今回は、整流子が無くても回り続ける簡単なモーターを紹介したいと思う。

原理・構造は簡単です。銅線を加工（やじろべーの様な形）するのが少し難しいが、製作にチャレンジしてみよう。

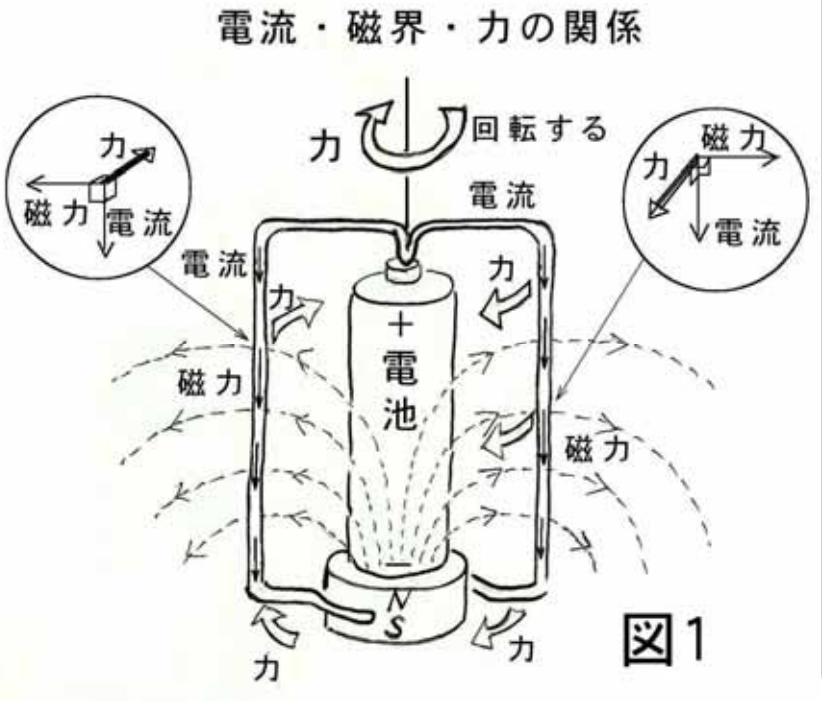
### ね ら い

① 整流子がなくても動くモーターを製作し、フレミングの左手の法則を更に深く理解させる。　（磁界の中で電流が受ける力を深く理解させる。）

### 実 践 例

**(1) 原理について**

図１が、整流子の無い、モーターの構造図である。土台の磁石による、周辺の磁界の様子が点線である。その磁石の上に電池を置き､銅線で作った｢やじろべー」に電流が流れる向きが下向きの実線である。その時に受ける力によって回り続けるモーターの様子を表している。（フレミングの左手の法則）



## (2) 作り方

① 土台になる磁石の部分を作る。土台になる磁石の部分に電流が流れるように、磁石の周りにアルミ箔に両面テープをはったものを巻いて図のように作る。
（磁石が電気の通る素材で出来ていればやらなくてもよい。）

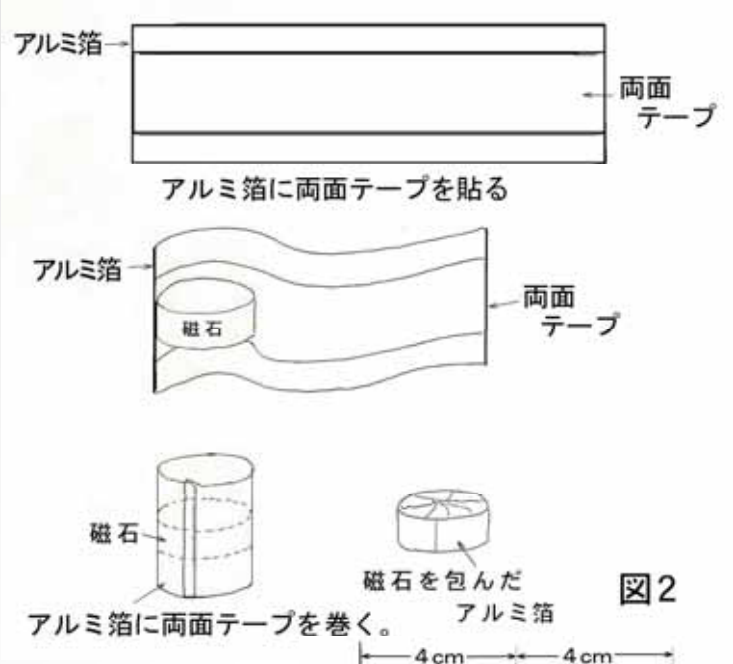


図2

② 少し太めの銅線をペンチなどで、図３のような形に作り、図４のように銅線の先を磁石の直径より少し大きめになるように折り曲げて「やじろべー」を作る。

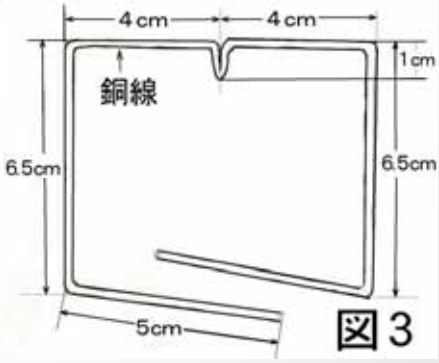


図3

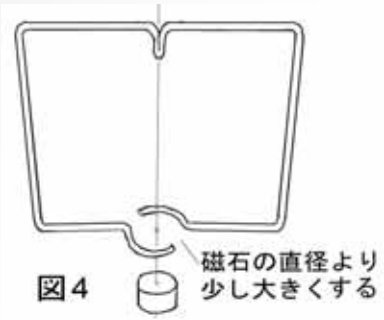


図4

③ 完成した磁石の部分と乾電池、銅線で作った「やじろべー」を図５のように組み立てる。
　磁石に巻いたアルミ箔と銅線の接点の位置を探し微調整する。軽く触れる程度。ここが一番難しい。
（工夫してみるとよい。）

## 成　　果

　構造が簡単なので、モーターが動く原理をフレミングの左手の法則のみだけで理解させることができる。その後、整流子の役割を学習し、本来のモーターの原理を更に詳しく説明すると更に理解が深まると思われる。
　＜参考＞　回転する「やじろべー」の導線に乗馬などの絵などを貼り付けると、素敵なインテリアにも？　また、「やじろべー」の導線の形もいろいろ変えてみるのも面白いと思う。いろいろアイディアを出してチャレンジをしてみるとよい。

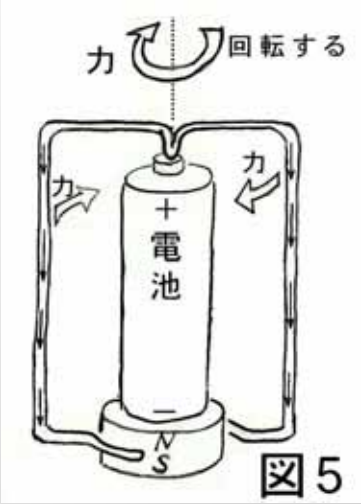


図5

理科　中学校　「新しい教材教具を活用した教育実践」

# 目で見て発見！
# 電流と磁界の世界を探ろう

～サブテーマ～

## マグチップを使った磁界の様子と
## 電流磁界観察器を利用した磁界の向き

川口市立在家中学校　教諭　小川敏明

### はじめに

今回の実験は“磁界の世界”を知る上で導入に当たるものである。また、様々に工夫した実験や自作した教具を利用して展開することが出来る分野でもある。そして、色々と試した中で「これは使いやすい」「準備が楽だし、分かりやすい」という実験教具との出会いを大事にして授業を進めていきたい。

### ね ら い

① 磁界の広がる様子をはっきり観察できるように“マグチップ（磁界観察用短鉄線）”を利用する。マグチップは、手を汚すことなく準備･後片づけがとても楽である。

② 3種類の“電気磁界観察器（ケニス）”を利用して、磁界の様子を観察したり、磁界の向きを方位磁針で短時間に正確に確認することができる。

### 実 践 例

**(1) マグチップを使った磁界の様子の観察**

①マグチップ（図１）の特徴

・形が細長いので磁力の長い方向に入るため磁力線に沿って並びやすくきれいに描ける。

・切り口が尖っていないので指や手にささらず安全に使用できる。

・亜鉛メッキで錆びにくく、従来の鉄粉より手や他の道具を汚さない。

図1

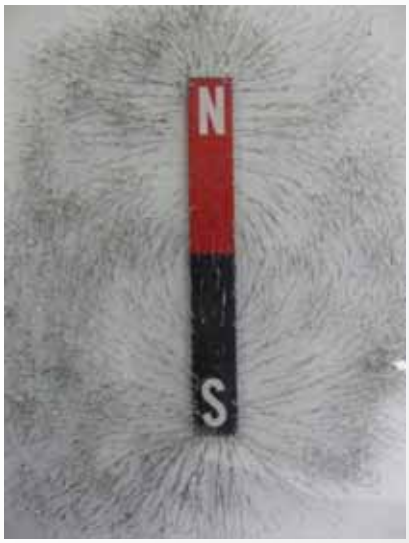
図2

②使用方法

・透明シート（図２）に割り箸等付けたものを用意する。

・棒磁石、U磁石の上に透明シートをのせて、マグチップを振りかける。

・磁界の広がり【磁力線の様子】を観察し、スケッチする。



### (2) 電流磁界観察器を使った磁界の様子と磁界の向きの観察

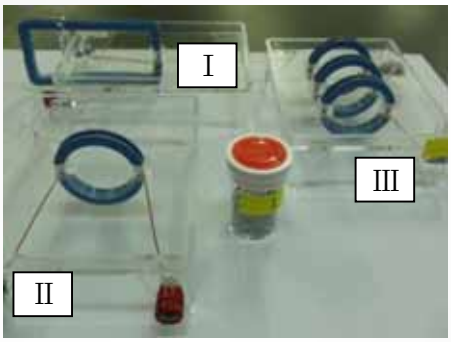
①電流磁界観察器の特徴

・導線の周りに発生する磁界の様子を簡単に観察できる実験観察器である。

・低電流、低電圧（乾電池２～３個）で短時間に分かりやすく観察できる。

・３種類（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ）の実験観察器を目的に合わせて使い分けることができる。

Ⅰ 直線状　　Ⅱ リング状　　Ⅲ コイル状




②使用方法

・目的に応じた観察器を選び、少量のマグチップを上から振りかける。

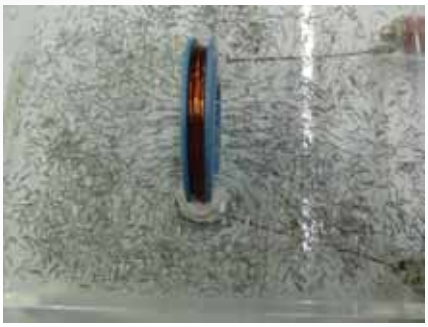
・電池（２個）を直列につなぎ、直流２～４Ａの電流を流す。

・マグチップを上から少量観察層に振りかけて、指先でコツコツコツと観察槽に振動を与え磁力線に沿った磁界の様子を作る。

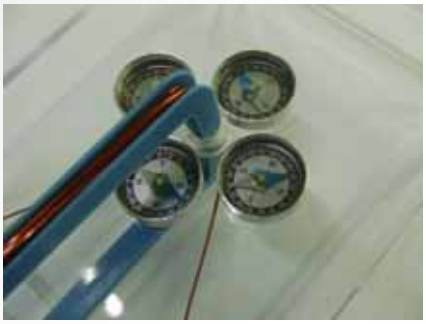
・次に、マグチップを取り除き観察槽の上に小型方位磁針を置いて、磁界の向きを観察する。

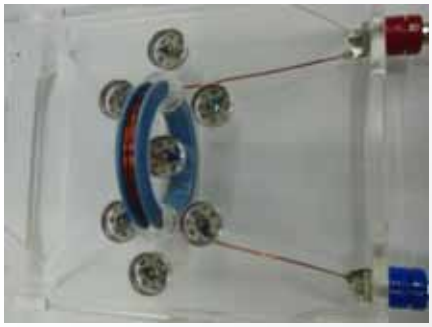
【Ⅰ 直線状】

【Ⅱ リング状】



【Ⅲ コイル状】





## 成　果

今回は誰でも比較的簡単に“磁界の実験”を進めることができる教材教具を紹介した。この分野では、コイルを使った自作の観察装置を用いた実験を行うこともできるが、個別実験のことを考えると用意・準備することに手間暇がかかり過ぎてしまう。そこで、年度当初に計画的に教材教具を購入することでこの分野を効率よく進めることが可能となった。

実践してみると、生徒達は誰もが進んで手を伸ばして実験器具を操作し、観察も分かりやすいという感想をもった。目で見て手で触れて、直感的に『電流と磁界の世界』を理解することができた。やはり、理科実験においては、「使いやすい教材教具」との出会いが大切である、と改めて感じた。

# 英語　中学校「基礎・基本の定着」

## 「スーパーインプット」で語順を正しく覚えよう！

川口市立芝中学校　　教諭　福田美恵子
川口市立芝東中学校　教諭　関口　温美

### はじめに

平成 22 年度埼玉県中学校学習状況調査において、英語科では「与えられた英語で語順正しく書くこと」に課題がある。正しい語順で書く力を高めるためには、日本語と英語の文法構造の違いを理解させ、くり返し使わせることが大切である。ここでは生徒同士が共に協力し合いながら学習していくことで、お互いの意欲を高め、語順の定着を図ることができる「スーパーインプット」を紹介する。

### ね ら い

英語の語順を、繰り返し練習することで確実に身に付けさせ、豊かな表現力やコミュニケーション能力の基礎となる力をつける。

### 実践例

①授業の最初のウォームアップの時間や復習とまとめなどの時間にスーパーインプットを行う。
②スーパーインプットのワークシートを用いて Read & Repeat を行う。
③個人で練習する時間を確保する。この間、教師は机間指導をして学習の遅れている生徒を支援する。
④生徒はワークシートを折って英文を隠し､正しく言えたらワークシートに自己評価を記入する。
⑤再び時間を取り、再挑戦させたり、できなかったところの重点練習を行わせる。
⑥ペアでワークシートを交換し､一方の生徒が日本文を言い､もう一方の生徒がその英文を言う。英文を聞いた生徒は、評価を記入し、ワークシートを返す。

＜スーパーインプットのワークシート　例＞

New Horizon English Course 1　UNIT 3

Class _____　Name_____

| | PART2　日本文 | check 自分 | | check 相手 | | | 英文 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 私はピアノを弾きます | | | | | 1 | I play the piano. |
| 2 | あなたはピアノも弾きますか？ | | | | | 2 | Do you play the piano, too. |
| 3 | あなたは毎日学校へ来ますか？ | | | | | 3 | Do you come to school every day? |
| 4 | あなたは自転車で学校に来ますか？ | | | | | 4 | Do you come to school by bike? |
| 5 | 私は歩いて学校に来ます | | | | | 5 | I walk to school. |
| 評価　A・B・Cで記入 | | | | | | 基準　5→A　4・3・2→B　1・0→C | |

## 成　果

**＜検証方法＞**

＊スーパーインプットをしないで、語順テストをした場合の正答率と、スーパーインプットで練習した後、同じ語順テストをした場合の正答率を比較する。

【手順】

① Unit 3~Unit5 までのスーパーインプット集の各 Unit から５つずつ問題を抽出して語順テストを行った。

② ①の正答率のデータを出した。（生徒はまだスーパーインプットのワークシートを見ていない）

③ Unit 3~Unit5 までのスーパーインプットを授業のウォームアップやまとめと復習の時間に行なった。

④ 同じ問題で再びテストを行い正答率のデータを出した。

スーパーインプット練習前　練習後　正答率について

| 問題番号 | 1回目正答率（練習前） | 2回目正答率（練習後） | 結果（伸び率） |
|---|---|---|---|
| 1 | 81.1 | 87.2 | 6.1 |
| 2 | 78.4 | 84.6 | 6.2 |
| 3 | 81.1 | 81.7 | 0.6 |
| 4 | 75.7 | 82.1 | 6.4 |
| 5 | 73.0 | 87.2 | 14.2 |
| 6 | 29.7 | 43.6 | 13.9 |
| 7 | 24.3 | 41.0 | 16.7 |
| 8 | 48.6 | 74.4 | 25.7 |
| 9 | 75.7 | 84.6 | 8.9 |
| 10 | 78.4 | 84.6 | 6.2 |
| 11 | 56.8 | 79.5 | 22.7 |
| 12 | 48.6 | 69.2 | 20.6 |
| 13 | 45.9 | 79.5 | 33.5 |
| 14 | 59.5 | 74.4 | 14.9 |
| 15 | 70.3 | 84.6 | 14.3 |
| 平均 | 61.8 | 75.7 | 13.9 |

＊1回目はスーパーインプットをしないでテストをした場合の正答率

＊2回目はスーパーインプットで練習した後の正答率

＜まとめ＞

①少ない練習回数でも、生徒は正しく語順を並べることができるようになった。また、できるようになったという充実感や隣同士で練習するという楽しさも意欲を持たせる上で有効であったと考えられる。

②問題番号の１～７は１回の練習で平均 9.2%up、８～１５は２回の練習で 18.4%up しており明らに倍の成果が出ていることになった。

③１回目の正答率が低いものほど、２回目は高い伸び率を示し、最高 33.5%もの伸びを示した。

④正答率が 50%に満たなかった６番、７番に関して以下ことが考えられる。

・練習回数が少なかった。　　・副詞の位置に慣れていない。

・like と favorite の語順の違いに慣れていない等

＜スーパーインプットの評価＞

スーパーインプットについては、「正しい語順が理解できたか」を評価規準とすれば、「言語や文化についての知識・理解」の評価に生かすことができる。

＜生徒の感想より＞

１回目のテストでできなかったところが、２回目にやった時にはできてうれしかった。
語順が効率よく覚えられた。

書く時は、あまり（語順を）考えずにやっていたけど、実際言ってみるとことばの並び順を考えて言わなければならないので結構苦労しました。全部言えるようにしたいし、とても役に立つと思います。

いつもは（英文を）見ながら言っているので、見ないで言うとなんか不安になって自信が持てなかった。あらためて、英会話をする時は何も見ないでしゃべるんだなと思った。

私はこの練習をして、１人でやると結構できたけれど、相手の人にチェックしてもらってやると次は何が来るのかがあまり思い出せなかったので、この練習をして自分がどれくらいできるかが分かって良かったです。

何回も覚えようとするので、いいと思う。何回も読んで自然と身に付くような気がする。

## ＜1学年　New Horizon　Unit 3～Unit 5で　語順テストに使用した英文＞

①あなたは毎日学校へ来ますか？
　あ come　い schoo1　う day　え you　お every　か do　き to

②あなたは自転車で学校に来ますか？
　あ by　い you　う bike　え to　お come　か schoo1　き do

③あなたは車がほしいですか？
　あ want　い you　う a　え car　お do

④私は車を持っていません。
　あ I　い a　う car　え have　お don't

⑤あなたは日本語を話しますか？
　あ Japanese　い you　う do　え speak

⑥あなたの好きな教科は何ですか？
　あ subject　い what　う you　え 1ike　お do

⑦しかし私は日本語を一生懸命に勉強します。
　あ study　い but　う hard　え Japanese　お I

⑧あなたは朝食に何を食べますか？
　あ for　い what　う breakfast　え have　お you　か do

⑨ここでお召し上がりになりますか？それともお持ち帰りですか？
　あ or　い for　う to　え here　お go

⑩はい、　どうぞ。
　あ you　い here　う are

⑪あなたはＣＤを何枚持っていますか？
　あ CDs　い how　う have　え many　お do　か you

⑫私はここに CD をいくつかもっています。
　あ have　い CDs　う some　えＩ　お here

⑬私は CD を（１枚も）持っていません。
　あ don't　い any　う CDs　え I　お have

⑭あなたはよく音楽を聴きますか？
　あ often　い you　う listen　え music　お to　か do

⑮昼食を食べましょう
　あ have　い lunch　う 1et's

# バックナンバーもぜひご活用ください

## 国　語

**第１集（平成１９年３月）**

事例１　「音読・朗読・群読で“読む力”を向上！」

事例２　「小学校のことを調べてまとめ、発信しよう！」

事例３　「さまざまな課題作文を、条件に注意して書く力をつけよう！」

事例４　「暗唱を中心に音読の力をつけよう！」

**第２集（平成２０年３月）**

事例１　「小学校で一番心に残ったことを友達や家族に伝えよう」
～聞き手に伝わるスピーチ指導の工夫～

事例２　「言葉遊びを楽しもう！」
～言葉遊びを作って楽しむヒント～

事例３　「作者の意図を理解して「故郷」を読む」
～論理的に文章を読む力」を育むために～

事例４　「修学旅行の句会を開こう！
～修学旅行の俳句を使っての相互評価～

**第３集（平成２１年３月）**

事例１　相手や場を考えて言葉遣いを考えよう
～使おう敬語、高学年らしく！～

事例２　自分の力で読もう！「海の命」
～自分で読み進める・考えを持つワークシート学習～

事例３　わかりやすく、正確に伝える話し方を学ぼう！
～話し言葉の基礎学習（わかりやすく、
正確に伝えるための話の組み立て方について）～

事例４　短歌に込められた世界を味わおう！
～短歌の評論文を書く～

**第４集（平成２２年３月）**

事例１　お勧めの本を紹介しよう、読みたい本を見つけよう
～本の紹介、めざせ、発表名人！聞き名人！～

事例２　登場人物の気持ちを読み取り表現しよう
～心情曲線を使って表現し伝え合う学習～

事例３　ゲームを通して品詞に慣れよう！
～文法を表現に生かすために～

事例４　広告の工夫を分析してみよう
～メディアの「落とし穴」にご用心！～

# 社　会

**第１集（平成１９年３月）**

事例１　「子どもの学習意欲を引き出す資料の活用法」

事例２　「わたしたちのまちや都道府県の
名前・特徴・位置・形を地図帳やカルタを使って楽しく学ぼう！」

事例３　「基礎基本が定着し、児童の興味関心を高めるための資料活用法」

事例４　「生徒の興味・関心を高め学力を向上させるための授業の工夫」

事例５　「人物名、基礎基本の用語をカルタ等を通じて楽しく学ぼう！」

**第２集（平成２０年３月）**

事例１　「ぐんぐん進む調べ学習！」
～アドバイスを生かし、わかる学習へ①～

事例２　「自分たちで学習問題をつくろう！」
～アドバイスを生かし、わかる学習へ②～

事例３　「見て・さわってわかる授業！」
～アドバイスを生かし、わかる学習へ③～

事例４　「都道府県テストに挑戦！」
～関連付けて覚える　反復して覚える～

事例５　「身近な地域の歴史学習の充実にために」
～わが町・川口を歴史学習に生かそう～

**第３集（平成２１年３月）**

事例１　興味関心を高めてスキルアップ！
～フラッシュカードやクイズで都道府県・国名を知ろう～

事例２　興味関心を高めてスキルアップ
～スリーヒントで考えよう～

事例３　学力と学習意欲の向上のために
～学力向上の取り組みと実物資料の活用～

事例４　言語活動で思考力を高める学習
～キーワードやカードの利用を通して～

**第４集（平成２２年３月）**

事例１　興味関心を高めてスキルアップ！
～フラッシュカードや体を使って方位･地図記号を覚えよう～

事例２　繰り返し学習しながら豊富な知識の獲得を

事例３　歴史資料を理解する力をつけるために
～文章資料を身近なものにする取り組み例～

事例４　年表を活用して歴史の流れをつかもう！

# 算数･数学

**第１集（平成１９年３月）**

事例１　「算数セットで楽しく練習しよう！」

事例２　「授業の“理解度ｕｐ”を図り、基礎基本を身に付ける」

事例３　「三平方の定理の導入」

**第２集（平成２０年３月）**

事例１　「名探偵！九九のひみつを見つけて！」
～数の並び方からきまりを見つけて楽しく学ぶ～

事例２　「学ぶ楽しさが味わえる算数授業の工夫（タングラムを活用して）」
～考える楽しさが味わえる教材～

事例３　「トランプゲームで楽しく学ぼう！」
～トランプを使った正負の数の加法・減法の指導～

事例４　「小学校・中学校の関連」
～小学校の学習内容を理解し、指導に生かそう～

**第３集（平成２１年３月）**

事例１　少数の世界を広げよう
～割り切れない商のひみつを見つめよう～

事例２　学ぶ楽しさが味わえる算数授業の工夫（分数多角形を教材にして）
～考える楽しさが味わえる教材～

事例３　トランプゲームで楽しく学ぼう！ＰＡＲＴ２
～トランプを使った正負の数の下方・減法の指導～

事例４　基礎・基本を身につけよう！
～夏休みを利用した補充学習～

**第４集（平成２２年３月）**

事例１　効果的な掲示物の工夫
～学習意欲を喚起する掲示物～

事例２　２４このおはじきをならべよう
～多様な発想を生かし、学習を発展させる力を育てる～

事例３　証明問題に強くなろう！
～パターン化による証明問題の指導～

事例４　基礎・基本の確実な定着をはかろう！
～入試予想問題の小テストの実施～

# 理　科

**第１集（平成１９年３月）**

事例１　「一人一人が実感でき、感動できる観察活動のあり方」

事例２　「学校は、ふしぎ？ワクワク！小さな科学館」

事例３　「星や太陽の動きをデジタル教材でわかりやすく学ぼう！」

**第２集（平成２０年３月）**

事例１　「理科の力が身につくワークシート」
～ワークシートを活用し、自然の事物・現象に興味・関心を高め、
問題解決の力や科学的な見方、考え方を身につけさせよう！～

事例２　「『理科の達人』になる　『理科の達人』をふやす」
～基礎・基本の定着と学力向上の実現～

事例３　「デジタル教材でわかりやすく学ぼう！PART２」
～デジタル教材の効果的な活用による授業の展開～

**第３集（平成２１年３月）**

事例１　植物っておもしろいな！
～身近な植物を観察し、自然の事物・現象に対する興味・関心を高めよう！～

事例２　進んで取り組み、技能が定着するワークシート！

事例３　理科室の掲示物から、情報発信！
～自ら進んで学べる教育環境の工夫～

事例４　計算があってもこわくないワークシートで段階的に理解しよう！
～計算のつまずきに配慮した湿度計算演習の授業～

**第４集（平成２２年３月）**

事例１　言語活動の充実を図るために
～予想をたてたり、自分の考えをまとめる工夫～

事例２　手づくり教材のすすめ！
～身近な素材を使った教材づくり～

事例３　デジカメを使った興味をもたせる理科授業！
～教室のテレビを有効活用した授業展開～

事例４　オームの法則を調べる実験器具の工夫
～豆電球のように、セメント抵抗に
電流が流れている様子がわかる実験器具の工夫～

# 英　語

**第１集（平成１９年３月）**

事例１　「川口市英単語検定に挑戦！」

「英語詩で今の自分を表現しよう！」

**第２集（平成２０年３月）**

事例１　「英語の学習どこでつまづいた？わからない箇所をやりなおそう！」

～「つまずき発見・克服シート」の活用～

**第３集（平成２１年３月）**

事例１　「Waku Waku Writing」

～書くことを通したコミュニケーション力の向上を目指して～

**第４集（平成２２年３月）**

事例１　基本的英単語を確実に覚えよう！

～川口市英単語検定の活用～

# 平成２２年度　川口市児童生徒学力向上推進委員名簿

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 副委員長 | 川口市立東中学校 | 校　長 | 川島　康行 | |
| | 川口市立元郷中学校 | 教　頭 | 熊谷　茂樹 | |
| 委　員 | 川口市立安行小学校 | 教　諭 | 小山　和子 | 国語 |
| | 川口市立戸塚北小学校 | 教　諭 | 山口由美子 | 国語 |
| | 川口市立青木中学校 | 教　諭 | 高原　　徹 | 国語 |
| | 川口市立戸塚中学校 | 教　諭 | 寒河江真亮 | 国語 |
| | 川口市立領家小学校 | 教　諭 | 尾田　賢一 | 社会 |
| | 川口市立朝日西小学校 | 教　諭 | 石崎　毅志 | 社会 |
| | 川口市立北中学校 | 教　諭 | 松尾　和朋 | 社会 |
| | 川口市立青木中学校 | 教　諭 | 鈴村　　聡 | 社会 |
| | 川口市立領家小学校 | 教　諭 | 河村　昭彦 | 算数・数学 |
| | 川口市立戸塚北小学校 | 教　諭 | 相樂　雅彦 | 算数・数学 |
| | 川口市立安行中学校 | 主幹教諭 | 木村　達夫 | 算数・数学 |
| | 川口市立安行東中学校 | 教　諭 | 桶舎真一郎 | 算数・数学 |
| | 川口市立芝西小学校 | 教　諭 | 岡部慎次郎 | 理科 |
| | 川口市立戸塚綾瀬小学校 | 教　諭 | 朝倉　伸行 | 理科 |
| | 川口市立戸塚中学校 | 教　諭 | 石塚　博一 | 理科 |
| | 川口市立在家中学校 | 教　諭 | 小川　敏明 | 理科 |
| | 川口市立芝中学校 | 教　諭 | 福田美恵子 | 英語 |
| | 川口市立芝東中学校 | 教　諭 | 関口　温美 | 英語 |

教育局

| | |
|---|---|
| 川口市教育局学校教育部長　（委員長） | 新海今朝巳 |
| 川口市教育局学校教育部次長兼指導課長 | 柴田　宏之 |
| 川口市教育局学校教育部指導課主幹兼指導係長 | 阿部　正一 |
| 川口市教育局学校教育部指導課主幹兼教育研究所副所長 | 山口　和伸 |
| 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 | 高橋　利昌（国語科担当） |
| 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 | 大場　　真（社会科担当） |
| 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 | 岸田　健吾（算数･数学科担当） |
| 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 | 安部　正幸（理科担当） |
| 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 | 森田　彩子（英語科担当） |